新撰
讃美歌

新撰

讃美歌

編輯
讃美歌委員

明治二十一年八月再刊

新撰讚美歌

緒言

此讚美歌集ハ明治十九年ノ春一致組合兩會ガ撰擧セシ委員ニ由テ成タル者ナリ。組合教會ニテハ松山高吉、宮川經輝、田村初太郎、ジオルジ、オルチンノ諸氏一致教會ニテハ奥野昌綱、植村正久、瀬川淺、ジー、エス、フルベツキノ諸氏ヲ其委員トセリ。翌明治廿年五月東京ニ開シ日本福音同盟會ハ大ニ此擧ヲ賛成シ且ツ之ニ依テ全國諸基督教會ノ用井ル讚美歌ヲ同一ニ爲ンコトヲ望メリ。然ル後各教會ヨリ其從來用井シ所ノ讚美歌集ヲ委員ノモトニ編輯ノ一助ニトテ寄送セラレシガ殊ニ監督教會ニテハ更ニ委員ヲサヘ立テ此業ヲ助ケラレシニ因リ我儕委員ハ愈ヨ力ヲ得且ツ主ニ在ル兄弟姉妹ガ一ノ讚美ヲ以テ一ノ天父ヲ稱ヘ謳フノ日近ニアラント樂ミツヽ勇ミ勤メタリ。斯テ今其完成ニ至ルヲ得シハ總テノ委員ノ輔佐ニヨルト雖モ其實主トシテ之ガ著作編輯ニ從事セシハ松山高吉、奥野昌綱、植村正久ノ三氏ニシテ之ニ譜調ヲ附シタルハ專ラオルチン氏ノ勞ナリ。譜調ノ事ニ付オルチン氏ヲ助ケシ者モアレド其ハ亦近日更ニ出版セントスル譜附ノ讚美歌集ニ序シテ述ブベシ。此卷ニ集ル所ノ歌ハ都テ二百六十三ニシテ之ヲ分テハ四種トナル其一ハ組合一致兩會ノ舊讚美歌ヨリ取テ改正セシモノ其二ハ他ノ教會ノ讚美歌中

緒言

ヨリ許諾ヲ得テ撰拔セシモノ其三ハ英語ノ諸讃美歌集ヨリ翻譯セシモノ其四ハ委員自ラ新製セシモノ是ナリ。而シテ其中尤モ多キハ翻譯セシ者ト新製セシ者トナリ。此他ニ頌榮ノ短歌數首アリ讃詠文等ヲ合スレバ凡テ卷中ニ輯収セシモノ二百八十九ニ及ブ。此歌集ノ爲ニ版權ヲ得タリ。夫ハ他日人或ハ猥ニ印行シ遂ニ錯誤ヲ生ゼンヿヲ恐ルヽガ故ナリ。然𪜈成ルベキ丈ハ他ノ出版ニ於テモ之ヲ用井ルヲ許サンコトヲ務ムベク又之ニ載セシ所ノ讃美歌並ニ其譜ニ付テ問ント欲スル者アラバ委員ハ喜テ答ヲナスベシ。此歌集ハ固ヨリ完全ナル者ニアラズト雖モ之ニ由テ完全ナル上帝ヲ讃美スル一助トナリ又唯ダ世ヨリ贖ハレタル者ノミ能ク學ブベキ寶座ノ前ノ新歌ヲ謳フ豫備トモナルヲ得バ是委員ノ滿悅スル所コレ編者ノ切望スル所ナリ

附云　委員ハ湯淺治郎氏ニ對シテ謝辭ナカル可ラズ同氏ハ此書ノ出版ヲ負擔シテ大ニ力ヲ盡サレ爲ニ委員ノ勞ヲ減少セシメタリ

主降世一千八百八十八年

明治二十一年三月三十日

讃美歌編修委員識

目次

聖子　自第六十　至第八十八

聖靈　自第八十九　至第九十三

拯救　自第九十四　至第百廿六

信徒生活　自第百廿七　至第百九十六

基督教徒の死　自第百九十七　至第二百七

天國　自第二百八　至第二百十三

審判の日　第二百十四

神の教會　自第二百十五　至第二百四十一

童蒙　自第二百四十二　至第二百四十七

雜の部　自第二百四十八　至第二百六十三

頌榮　自第二百六十四　至第二百七十四

讚詠文　自第二百七十五　至第二百八十六

大尾

いろハ分け見出し

い ノ 部

わ ノ 部

ゐノ部

よ ノ 部

た ノ 部

う ノ 部

の ノ 部

お ノ 部

く ノ 部

ゆノ部

めノ部

みノ部

頌栄の歌以下は見出の中になし

新撰讃美歌

1 第一　VIA VITAE. 77777. B♭.

一　しのゝめごとに　やみぢをこえて
こゝろにうくる　きみがひかりは
みいつくしみを　あらたにしめす

二　しのゝめごとに　あめよりくだり
つみをきよむる　めぐみのつゆは
主のあはれみを　あらたにくはふ

三　しのゝめごとに　わがものみなを
かみにさゝげて　めぐみをてはむ
よきものをもて　あらたにたまはん

四　しのゝめごとに　みまへにいでゝ
けふのつとめを　つゝしみとはむ
なすべきわざを　あらたにをしへん

2 第二 INTERCESSION. 75757575. G.

一 ひがしのそらは　あけわたり
いこひのよるも　すぎゆけば
詣朝(まだき)にこゑを　はげまして
主よみちびけと　よばふなり

二 きみなる耶穌よ　けさもまた
わがなりはひを　とるために
いでゆくかたの　しるべして
もとむるものを　たまへかし

三 ゆくてはさだか　ならねども
きみがおほせに　したがひて
たゞみこゝろを　なすために
つとめのかどに　いりなまし

四 わがつみとがを　のぞきさり
ゆきよりしろく　なしたまへ

さらばいまより　みこゝろを
こゝろとなして　つとむべし

五　めぐみによりて　むすぶ果の
さかえをながく　主に歸して
まごゝろよりや　ちゝと子と
みたまの聖名を　たゝへまし

3　第三　ABERYSTWYTH.　6686.　(S.M.)　G.

一　わがみかみよ　わきていよゝ
みもとにすゝみて　ともにをらゐん

二　ひるもよるも　やどるいへの
うちにもとにも　主とゝもならん

三　あさのひかり　われをば世の
いとなみにまねく　そのときにも

四　いのりをもて　きみとゝもに
すべてのわざをも　なしはじめなん

五　けふのことゝて　このゆふぐれに
いこふのときも　主よともなれ

六　あさ日ゆふ日も　たえずわれの
きみともなるを　てらしみるらん

七　いくるときも　しぬるときも
主とともにありて　たのしまゝし

4　第四　COOLING. 8686. (C.M.) D.

一　ゆふぐれしづかに　いのりせんとて
よのわづらひより　しましのがる

二　かみよりほかには　きくものなき
木かげにひれふし　つみをくひぬ

三　すぎこしめぐみを　おもひつゞけ
いよゝゆくすゑの　さちをぞねがふ

四　うれひもなやみも　わがみかみに
　　まかすることをぞ　よろこびとせん

五　うきよのあらしに　たゞよふときも
　　天(てん)のひかりをみて　いよゝいさむ

六　身(み)にしみわたれる　このゆふぐれの
　　えならぬけしきを　いかでわすれん

七　このよのつとめの　をはらんその日(ひ)
　　いまはのときにも　かくてあらなん

5　第五　VIRGINIA.　7777777.　F.

一　ちゝなるかみの　みいつくしみを
　　まくらとなして　うへよりきたる
　　みつかひたちに　まもらるべしと
　　信(しん)じてねむれる　身(み)こそやすけれ

二　乳(ち)ばなれしつる　うのをさなごが
はゝのむねにて　ねむれるごとく
われもちゝなる　かみのみむねに
こゝろもたれて　しづかにねむらん

三　日(ひ)ごとのときを　うきにしづめし
くいもなげきも　いかりもいまは
うみのうへふく　あらしのやみて
なぎたるごとく　みなしづまれり

四　みくらに達(とゞ)く　いのりのこゑは
こだまのごとく　こゝろにひゞき
たゞなにごとも　かみにまかせて
やすくねむれと　なぐさめられぬ

第六　REDHEAD. 7777. D.

一　いる日(ひ)しづかに　きえゆくころに
わづらひをさり　主とかたらまし

二 み目(め)内外(うちと)を もらさぬかみよ
かくれしつみも ゆるさせたまへ

三 この日ひとひに きえうするとも
つみなきくにの ひかりをみせよ

四 身(み)につみおくも ひとのよわきを
しろしめす主よ かへりみたまへ

7 第七 HURSLEY. 8888. (L.M.) F.

一 わが靈(たま)のひかり わがすくひぬしよ
みまへにちかづく われに夜(よる)なし

二 うきくもおこるも このしもべの目(め)に
みかほのひかりを おほひなかくしろ

三 主(しゅ)よいとしづけき ねむりの夜(よ)つゆの
つかれしまぶたに おちきたるときに

四
永(とこ)しへにやすらふ
たのしきいへにと
耶穌のふところの
おもはしめたまへ

五
わが主よひねもす
われ主によらでは
ともにをりたまへ
いくるみちぞなき

六
日(ひ)くるゝときにも
これ主によらずは
これをなはなれそ
死(し)をおそるゝなり

七
ちゝよみめぐみの
つみのねむりより
みこざをあらはし
よびさましたまへ

八
これ目(め)さめて世(よ)に
こが主まづきたり
たちいづるさきに
祝(しく)してみちびけ

九
天(てん)にのぼりゆきて
身(み)をいるゝ日(ひ)まで
あいのふかき海(うみ)に
御手(みて)をなはなしそ

8 第八　EVENTIDE. 10 10 10 10. E♭.

一
ゆふべとなり日くれぬ
ともにやどらせたまへ
よるべなき身のたよる
主よともにやどりてよ

二
いのちのゆふべとほからず
こうめいえいぐわもきえゆく
世のかはりいかにぞや
主よともにやどりてよ

三
ゆくみちはいとけはし
せまる仇を主ならで
たれによりてまぬかれん
主よともにやどりてよ

四
とづる目にみえわたる
じふじのかゞやきにぞ
てんのあけぼのをのぞむ
主よともにやどりてよ

9 第九　VESPER HYMN. 878787. D.

一 すくひぬし耶穌よ　わがたましひの
ふしいてふまへは　めぐみをたれよ
つみとともしきを　いひあらはせる
われらをいやして　たすけをたまふ

二 ほろびはわれらを　とりかこむとも
矢(や)はてのあたりに　とびきたるとも
みつかひきたりて　われらをまもり
主ちかくいませば　おそれはあらじ

三 夜(よ)はいかにくらく　さびしかるとも
ちゝのみかほをば　かくしうべしや
うみつかれずして　そのみたみらを
まもれるきみこそ　たふとかりけれ

四 死(し)むてよひ俄(にえ)かに　わが身(み)をおそひ
ふしどはたちまち　墓(つか)となるとも

10　第十　HENDON. 7777. F.

一　ヱきられかみの　たみにしあきば
身(み)もたましひも　つねにまもらる

二　ちゑもちからも　全(また)きヱゞの主よ
いかにたゝへて　聖名(みな)をはむべき

三　みゐどにきたり　よろこびうたふ
こゑむみうらの　うへまでおゞらん

四　主のみことむれ　あめつちのごと
いやたゐくして　ひろくあまねし

五　みいつくしきむ　むじめをむりも
なきよのごとく　いとおはいなり

六　つき日のめぐり　やゝなんときにも
かみのまことを　うたくたつべし

11　第十一　UNIVERSITY. 7777. F.

一　われらエホバの　めぐみのみざに
よろこびつどひ　聖名(みな)をぞよむふん

二　み名をあがめて　よぶふる子(こ)らの
つどひを祝(しゆく)し　めぐみをたまへ

三　うきもなやみも　みなきえうせて
寶座(みざ)のもとにぞ　なぐさめみつる

四　天(てん)にゆく日(ひ)まで　たえずつどひて
すべてのめぐみ　いざともにうけん

12　第十二　DUKE STREET. 8888. (L.M.) D.

一　ちよろづのくによ　エホバのほまれと
耶穌きみのみなを　あまねくたゝへよ

二 耶穌のみめぐみと　かみのいつくしみ
あめにもつちにも　みちてもきはなき

三 ほろびはうせゆき　すくひはきたりぬ
たみなこぞりて　こゑたかくうたへ

四 ちよろづのくによ　エホバのほまれと
耶穌きみのみなを　あまねくたゝへよ

13 第十三　CREATION. 8888. (L.M.) A♭.

一 くにぐにしまじま　みな主のみもとに
悦(よろ)こびつどふ日(ひ)　とくとく來(こ)よかし

二 きみのきみなる主　ちからをほどこし
うみをもくがをも　まつろはせたまへ

三 耶穌こそおほ君(きみ)と　たゝへ貴(たふ)とぶまで
さかえのかちどき　よもにおてらせよ

14 第十四　DUKE STREET. 8888. (L.M.) D.

一 あはれみのかみよ　いまたまはりたる
　いのちのかてにて　われらをやしなへ

二 わが主のちしほに　つみをあらひさり
　世(よ)にかつちからを　ゆたかにあたへよ

三 めぐみの寶座(みざ)にて　うけたる平安(やすき)を
　よもひもたもちて　主をたゝへしめよ

15 第十五　GREENVILLE. 878787. F

一 主よみめぐみもて　われらにそゝぎ
　よろこびにみちて　みまへをさらせ
　あいのはたらきを　世(よ)になさしめよ

二 ちゝなるみかみの　ともに在(いま)すを
　こゝろにみとめて　おこなふわざに
　いよゝあきらけく　世(よ)にしらしめよ

三 うけし聖言は こゝろの畑に
よき果をむすびて いよ／＼しげく
あめなる庫に たくはへしめよ

16 第十六 LISBON. 6686. (S.M.) G.

一 主のさかえに いりたまひし
たふときこの日を よろこびむかふ

二 主はくだりて われらをむかふ
いざやもろともに みまへにいでん

三 よのたのしむ 日はおほかれど
けふのさいはひに まさる日なし

四 かみはちかく われとともに
いましてゆたかに めぐみをたまふ

五 めぐみの日を きよくまもり
みくにゝゆくまで うたひつゞけん

17　第十七　GUIDE. 77777. G.

一　またひとめぐり　このよのたびぢ
やすくみちびき　いまてのみやに
つどはせたまふ　わがかみエホバ

二　つみもけがれも　よのわづらひも
かみのみまへに　みなきえうせて
いのるこゝろに　やすきをぞうけん

三　かみのことばに　うゑたるたまも
ちからえてこそ　めぐみにたちて
よにあるかぎり　このひいはゝめ

18　第十八　ROSEFIELD. 77777. Bb.

一　わきやすらけく　きよき日むかへ
あめなるちゝの　みまへにつどひ
すべてのたみと　めぐみをいのる

二 主のおとづれは　もるゝくまなし
けふのたのしみ　かぎりあらじ
みなたましひも　うれひをわする

三 主のあはれみは　うみよりふかし
めぐみのなみに　つみをばあらひ
こゞの身をきよめ　にへにぞさゝげん

四 六日のわざは　身のためなれど
けふのやすみは　いのちのためぞ
いさぎよくして　この日をまもれ

五 きよきあしたに　とくおきいでゝ
耶蘇のみまへに　ひれふしつかへ
こゝろきよめて　みたまをあふげ

六 このよをゆくに　まさみちあゆめ
たびぢをはりて　ねむりあつかむ
くちぬさかえの　たのしみうけなん

19　第十九　BYEFIELD. 8686. (C.M.) F.

一　いのりはくちより　よし出(で)ぬとも
　　まことある靈(たま)の　求言(ねぎごと)なり

二　いのりはひそめる　むねのうちの
　　かくれしひのほの　もえたつなり

三　いのりは神のみ　いますときに
　　訴(うた)ふるなげきの　氣息(いき)にぞある

四　いのりはをさなき　くちびるにも
　　たやすくいひうる　ことのはなり

五　いのりはあめなる　みくらまでも
　　きこゆるゆゝしき　うたにぞある

六　いのりはわれらの　いのちのいき
　　成長(おひたち)しさとの　空氣(くうき)なるなり

七　いのりは死の門に　よびかふことば
　　天にのぼるときも　ともなひゆく

八　いのりはくいたる　つみびとらの
　　おのれのみちより　かへるこゑぞ

九　かみのみつかひは　これをきゝて
　　視よいのれりとて　よろこびうたふ

20　第二十　ST. AGNES. 8686. (C.M.) G.

一　いのりはかみより　たまふいきの
　　またいでしもとに　かへるこころ

二　あいはまたもゆる　きよき火にて
　　いのりはほのほの　のぼれるなり

三　おもにゝなやめる　そのたましひ
　　いのりによりてぞ　やすきをえなん

四　かなしむこゝろを　なぐさめられ
　　つかれたるものを　やすみをうる

五　いのりのこゝろを　あたふる主を
　　そのこゑにみゝを　かたぶけたまふ

六　へりくだるものは　なげきよぶを
　　みまへにかなづる　音樂（おんがく）なれや

七　主をひとのために　死（しに）たまへり
　　いのりにこたへの　なかるべしや

21　第二十一　RETREAT. 8888. (L.M.) E♭.

一　なみかぜのあらき　うき世のなかにも
　　やすらふところは　めぐみの寶座（みざ）なり

二　われらがのがるゝ　めぐみのみざなれ
　　つみもかなしみも　きえてあとぞなき

三　よろこびのあふら　うくべきところれ
主の血(ち)あうるはふ　めぐみのみざあり

四　すみのへだつとも　主をよぶみたされ
めぐその寶座(みざ)あて　ともあてうあむめ

22　第二十二　EYAN. 8686. (C.M.) A♭

一　わがくちはつねに　エホバをほめん
へりくだるものは　よろこびつうふ

二　玄たしめるものよ　わきと字もに
エホバをあがめて　み名(な)をたふとめ

三　くるしめるときに　よびまつきは
みゝをかたふ(む)けて　きゝたまへり

四　エホバのつかひは　われをまもり
のこめるあたをも　玄りぞくべし

五　こゝろのいためる　ひとはきたき
　　エホバはおはきこ　いやしたまはん

23 第二十三　SWEET HOUR. 8888888. D.

一　たのしきいのりの　ときよこのときれ
　　なやみある世より　みきをよびいだし
　　ちゝのおはまへお　なべてのもとめを
　　たづさへいたりて　つぶさおぞつぐる

二　たのしきいのりの　ときよこのときれ
　　さまよひいでたる　みこのたまをすくひ
　　あやふきみちより　たむくなへして
　　いざなへるものゝ　わなをのごきしむ

三　たのしきいのりの　ときよこのときは
　　うびゆるピスガの　やまのたかねより
　　ふるさとなごめて　のぼりゆく日まで
　　なぐさめわたへて　みきをよろこばす

四 やぶるべきふくの　ころもをぬぎさり
あめにのぼりゆき　つきせぬたまもの
うけたるのちには　たのしきいのりの
ときよそのときに　いとまをつぐべし

24

第二十四　JACOB. 7777777. Eb.

一 われはわが主に　おのれをさゝぐ
主はわがあゆむ　途しりませば
そのあはれみの　みてをはなさで
身もたましひも　まもりたまへり

二 わがつみとがの　あはきがごとく
かみのめぐみも　かぞへつくさじ
たえずながるゝ　いのちのみづに
ゆきてすくひの　さかづきとらなん

三 われはわが主の　あたへたまひし
すべてのものゝ　はかにさゝぐる

ものもなけきべ　耶穌の名(な)により
こゝにさゝぐる　いのりをうけよ

25 第二十五 SHEAVES. 66656665. B♭.

一 かみのめぐみを　主にたのおい
ゆたのふみつ　あのみとの
うけよめぐみを　そのおむれを
のなしとうせ　うきもきえん
　　このとのふ　とくきたれ
　　うけよたまもん　うのめぐみ

二 くもゐのこや　こづがふせや
つひおもをぬ　うきためし
ひとむくさの　むなおひとし
あさの榮(はえ)達れ　夕(よべ)おちらん
　　とこしへの　さちかある
　　このみとのに　とくきたれ

三　主のすくひは　世(よ)にあまねし
なきてきたる　くいよつみ
なみだのわき　つみきよまる
あいのみうは　むけたまはん
よろこびへ　つねにみち
うたへうする　このみとの

26 第二十六　NUREMBERG. 7777. G.

一　あめにまします　われらのちゝよ
聖名(みな)をあがめて　たふとませたまへ

二　みくにきたらせ　ろのみこゝろの
あめにあるごと　地(ち)にもなさせよ

三　日(ひ)ごとのかてを　けふもあたへよ
ひとをゆるせは　われをもゆるせ

四　こゝろみにさへ　あはせたまはで
たゞあしきより　われらをすくへ

五　くにもちからも　さかえもあふぐ
　　たもちたまへは　われはかくねがふ

27　第二十七　HAVEN. 8686. (C.M.) E.

一　かみよりたまはる　きよき書(ふみ)は
　　くすしきひかりを　つねにはなつ

二　死(し)のかげやみぢも　われおそれじ
　　いのちのひかりは　聖書(みふみ)にあり

三　なみだのたにゝて　なやめるとき
　　うきをなぐさめて　やすきをあたふ

四　たへにたふとしや　そのみてとは
　　われらをみくにゝ　みちびきゆく

五　現世(うつしよ)のなげき　よるのうちも
　　みちびきとなりて　われをまもる

六　つひにとこしへの　ひるにはなせ
　　さかえのかゞやき　ひかりにみすらん)

28　第二十八　WESLEY. 8686. (C.M.) E♭.

一　ひかりなしきものゝ　むくりごとに
　　身をうしなふとも　またたのふまじ
二　つみびとのあゆむ　そのみちには
　　たのちをうるとも　すゝみゆうじ
三　たのぶきるものゝ　そのむしろさ
　　いうにたのしくも　つらなるまじ
四　エホバのおきてを　よるもひるも
　　よろこびとなして　たえずおもむん)

29　第二十九　ARLINGTON. 8686. (C.M.) F.

一　かみのみてとなれ　いともくすし
　　きくつみびとらの　よろこびあり

二　みふみにいのちの　いづみあふる
かわけるよのひと　くみていきよ

三　聖書(みふみ)のひかりは　やみをてらし
ほろびのみちより　ひとらをすくふ

四　やみぢをのがれて　ひかりにつき
いのちのいづみに　とはにいこへ

30　第三十　ST. LAWRENCE. 8888. (L.M.) G.

一　おほいなる神(かみ)よ　あまねく地(ち)にまく
みことばのたねに　天(てん)のつゆをくだせ

二　敵(あた)にこのきよき　たねをなとらせそ
まろきしこゝろに　根(ね)をはびこらせよ

三　生長(おひたた)んとする　この聖(せい)なる樹(き)を
世(よ)のわづらひにて　おほひなからしろ

四　日(ひ)に日(ひ)にあいの果(み)　ゆたかにむすびて
やすきとよろこび　かりいれ為(せ)しめよ

31 第三十一　NICEA. 12 12 12 10. D.

一 聖なるかな聖なるかな　奇きちからの神エホバよ
われらのたゝへまつる歌ハ　みもとに上りゆきなん

二 聖なるかな聖なるかな　げにも憐みにとみたまふ
全能なる君みつにして　一つにますおほみ神

三 聖なるかな聖なるかな　ひじりらハ水晶のうみの
ほとりに金のかむりを　なげすてゝ主をあがむ

四 ケラビムもセラビムも皆ともに　昔しあり今あり後も
永遠にます主のみまへに　伏てぞ拜みまつる

五 聖なるかな聖なるかな　くらきハ君を覆ひかくし
罪人の目にみえざるとも　きみぞひとり聖なる

六 聖なるかな聖なるかな　ちからも愛もいさぎよきも
全きものハ君のほかに　ひとりだに有じかし

七 聖なるかな聖なるかな　大能あるかみエホバよ
天地もうみも皆こぞりて　主の名をほめまつらん

32　第三十二　ITALIAN HYMN. 6646664. F.

一　あめの父(ちゝ)よ　こさのえみち　あふれぬ
萬有(ばんいう)のうへに　勝(かち)をえたる
いともたのき　わが主よ

二　とこしなへに　いますものよ　きたりて
わがこゝろを　をさめたまへ
われのしてみ　まつろはん

三　人となれる　聖子(みこ)よかみの　ことばよ
きたりて利(とき)つるぎをおび
ともにまして　まもりね

四　わがいのりを　きゝたまひて　みたまを
きたりいはへ　主のみことば
世(よ)にいさをば　あらはせ

五　きたれきよき　なぐさめてよ　よろこび
みつるときに　ろのあうしを
われにしめし　たまひね

六　全能(ぜんのう)にてます　みたまのかみ　われらを
をさめたまへ　ともにまして
なはなきゆき　たまひろ

33　第三十三　LAUD. 8686. (C.M.) G.

一　ひとりのみ子(こ)をも　たまふはどに
ひとをいつくしむ　ちゝをはめよ

二　その血(ち)をながして　つみをあがなふ
われらのきみなる　耶穌をはめよ

三　けがれしこゝろを　あらひたまふ
きよきみたまなる　かみをはめよ

34　第三十四　NETTLETON. 878787. D.

一　われらのちゝなる　まことのかみぞ
いとたかきあめの　みくらにませど
へりくだるものゝ　こゝろにすめり

二　われらのきみなる　耶穌キリストも
いとたかきかみの　ひとり子なれど
さかえをすてゝぞ　よにくだりける

三　神のおくりたまふ　みたまのかぜも
あまつみくらより　よにふきくだり
あをひとぐさをぞ　なびかせたまふ

四　ひとはあらがねの　つちよりいでゝ
いやしきさまなる　ものにしあれど
その身をわすれて　おごりたかぶる

五　いざへりくだれや　つみあるともよ
たかぶるこゝろの　かうべをたれて
じふじかのもとに　きたりひれふせ

35　第三十五　LUBECK. 7777. C.

一　よろづのもの〻　つくりぬしなる
ちゝのみかみを　あがめたゝへよ

二 よろづのものゝ すくひぬしなる
みこのかみをば あがめたゝへよ

三 よろづのものを きよめたまへる
みたまのかみを あがめたゝへよ

四 ひとりのみかみ みつにわかるゝ
ちゝ子(こ)みたまを ひとしくうたへ

36 第三十六 PENTECOST. 8888. (L.M.) G.

一 よのくにくらゐも みなかみにつけり
よろづのくにびと みさかえをほめよ

二 かみのみいくさに たれかあたるべき
主のめぐみことに イスラエルにあり

三 ことぐにみだれて 世(よ)はゆらるゝとも
みたみはやすけし かみわがしろなり

37 第三十七　WAKAYAMA. 7777. G.

一 われらエホバの　みまへにうたひ
すくひのいさを　よろこびよばはん

二 わがかみエホバ　あやにたふとし
きみのきみなり　かみのかみなり

三 やまのいただき　ふかきたにだに
おほつちうみも　みてにぞなれる

四 われらもみてに　つくられたりき
いざもろびとよ　きたりひれふせ

38 第三十八　OLD HUNDRED. 8888. (L.M.) G.

一 エホバのみいづは　あやにかしこしや
みくらのみまへに　たゝへてひれふせ

二 ちよろづのものを　つくれるちからは
またなどかこれを　滅(ほろ)ぼしえざらんや

三 みわざををさむる　かみのみちからられ
かよわきわれらの　手(て)をかりたまはず

四 泥(ひぢ)もてつくりし　はかなきこの身(み)に
いのちのいきをば　ふきいれたまへり

五 われらはまよへる　ひつじにしあれば
きしよりのをりに　かへらしめたまへ

39 第三十九　ELLACOMBE. 8686886. Ab.

一 エホバはちからに　とみたまへば
かぜもみてふそに　したがふなり
エホバ宣(のた)まへば　あまつそらに
かゞやきめぐれる　日(ひ)もとゞまる

二 なみよさかまきて　なりとゞろき
くがにうちよせて　よせ來(こ)ば來(こ)よ
エホバおはしてを　たかくあげて
たちまちはまべに　つなぎたまはん

三　ふきくる夜(よ)あらし　こゑたけりて
ちからのかぎりに　あらぶるとも
みゆるしあらずば　樹(き)のうへなる
小鳥(ことり)の巣(す)をだに　うごかしえじ

四　たふときみてゑは　なりとゞろく
いかづちのうちに　きこゆるなり
エホバのみいづは　つむぢかぜを
をさめてそらにぞ　かゞやきける

40 第四十 PLEYEL'S HYMN 7777. G.

一　エホバをほめよ　はじめもあらず
をはりもなくて　つねにますかみ

二　そのたゞしきも　御(み)徳(とく)もちゑも
まこともとはに　みちてたらひぬ

三 よろづのものを　つくりそなへて
夜(よ)も日(ひ)もまもり　つうさどりたまふ

四 すべてのたみよ　エホバをたふとめ
世(よ)にあるかぎり　つかへまつろへ

41 第四十四　MISSIONARY HYMN. 76767676. D.

一 はうりえらきぬ　ふうきみちを
あゆえたまへる　あまつうみれ
おみなあとたき　あらしなさへ
おもふまふく　のりゆきたまふ

二 たへなくすしき　おはみてふろれ
こゞねのごとく　うぶやけども
くろうねやまの　ろてふうくて
世(よ)のひとの目(め)な　みえずなある

三
ゆめおそるゝな　神のみたま
ものすさまじき　くろくもにも
めぐみはあつき　汝がうへにぞ
あめとふりしき　うゝぎきたらん

四
あさきちゑもて　あなかしてな
主をなむのりろ　をさな子らの
へりくだりたる　こゝろをもて
神のめぐみを　専にたのめ

五
ときしきぬれば　さきにはひて
にがきつぼみも　いとめでたく
うらにのぶやく　むなのいろの
たへにみゆるぞ　みこゝろなる

42　第四十二　CREATION.　8888. (L.M.) A♭.

一
あめつちはみ神の　さうえをあられし
そられその手の　みわざをしめせり

二　この日(ひ)はことばを　かの日(ひ)にいひつぎ
　　この夜(よ)は知識(ちしき)を　かの夜(よ)におくれり

三　いはずかたらはず　こゑはきこえねど
　　そのひゞき全地(ぜんち)に　いたらぬくまなし

四　エホバのおきては　そなはりてまたく
　　ひとのたましひを　いきかへらすなり

五　エホバのさとしは　なほくしてたゞし
　　われらがこゝろに　よろこびをあたふ

六　かみのいましめは　けがれなくきよく
　　くもれるまなこを　あきらかならしむ

七　エホバのことばは　黄金(こがね)よりたふとく
　　蜜(みつ)にくらぶれば　まさりてぞあまき

八　わがくちのことば　こゝろのおもひも
　　ねがはくはかみに　悦(よろ)こばれんことを

43 第四十三 SIMPSON. 57577. B♭.

一
あめつちあ　ひゞうせうたへ
うみの子ら　うけしめぐみと
そのみさうえを

二
おはわだも　くゞもありでし
みちうらの　あみのみわざゞ
たへあくすじき

三
そむきにし　世(よ)あもすくひを
たまひける　ふうきめぐみれ
むうまえらきず

四
つくすとも　いうでめぐみあ
むくゆべき　たゞ身(み)とたまを
献(さゝ)げてつうへん

44 第四十四 EBER. 7575 B♭.

一 神のめぐみの　はかりなや
あいのふかさぞ　ありがたき

二 たれかおそれむ　とがのうきひ
たきりれゆるす　ときのつみ

三 つみのをさなる　とがのために
すくひのかどは　ひらかれぬ

四 つみのおもにを　主のかたに
おろして進(すゝ)まん　ためらはで

五 ゆるしのちかひ　きくひとの
さいはひいかに　おはいなる

六 めぐみの御徳(みとく)　はかられず
くちにぞいづる　さんびのこゑ

45　第四十五　QUAMI DILECTA.　57577.　F.

一　主はわれの　牧者(ぼくしや)にませば
おそれなし　うゑもかわきも
せめ來(く)べきやは

二　あをくさの　しげれるそのに
うちふさせ　きよきながれに
われをみちびく

三　まよひぬる　われをたづねて
ひきかへし　すぐなるみちを
しめしたまひぬ

四　あいの御手(みて)　つねにはなれで
身(み)にそひぬ　いまはのきはも
やすけからまし

五　ゆたかなる　そのみめぐみを
とこしへに　きみがみまへに
たゝへうたふべし

46 第四十六　WARE. 8888. (L.M.) G.

一　みかみのひかりは　まことはかゞやき
　　くもきりはきえて　世(よ)ははれわたれり

二　かみのたゞしさは　やまのごとくにて
　　よろづ世(よ)ふるとも　うごくときぞなき

三　ゆたけきめぐみは　おほうみにひとし
　　もれなくすべての　ものをぞたまはる

四　われらのやすきは　かみのはかになし
　　うれひのときにも　みかげにぞのがる

五　めぐみのかてにて　われはやしなはれ
　　いのちのながれは　この身(み)をいてはす

六　われのたましひは　みいつくしみにて
　　ちかひのさかえを　見(み)てこそよろこべ

47　第四十七　BENEVENTO.　7777777.　Eb.

一　エホバはわれの　牧者(ぼくしや)にませば
われはともしき　ことなかるべし
みどりの野(の)べに　われをふさしめ
いこふ(ヲ)みぎはに　ともなひたまふ(ヲ)

二　わがたましひを　いきかへらしめ
聖名(みな)のゆゑもて　まよへるわれを
たゞしきみちに　みちびきたまふ(ヲ)
めぐみのみては　つねにはなれず

三　よし死(し)のかげの　たにをゆくとも
世(よ)のわざはひを　われはおそれじ
エホバのつゑと　そのしも[illegible]とは
われをなぐさめ　たすけたまへり

四
あたのまへにも　むしろをまうけ
首べにあぶらを　そゝぎたまへば
わがさかづきは　あふれにあふる
かみのめぐみこそ　いかにたへなる

48 第四十八 WARD. 8888. (L.M.) B♭.

一
かみわがしろなり　わがちからなるぞ
くるしめるときに　ちかきたすけなり

二
地うつりうみ鳴　やまはうごくとも
われらはおそれじ　かみわれをまもる

三
しづかにながれて　つきせぬかはあり
あたりをうるほし　みやこにあふれぬ

四
ことくにはさわぎ　あめのしたみだる
かみのこゑたかし　地はやがてとけぬ

五
主のわざみよかし　みいづをかしこめ
たゝかひはやみぬ　うみよりうみまで

六　萬軍（ばんぐん）の主ヱホバは　われらとともなり
ヤコブのかみこそ　われらのしろなれ

49　第四十九　LISBON. 6686. (S.M.) G.

一　まうけたまへる　おほみおきては
いのにさよくまた　おだやかなる

二　そのさとしは　ねもごろなり
きたりておもにを　主にゆだねよ

三　かみのみたまふ　み目（め）のしたに
せいじやは平（たひ）らに　すまひをなす

四　あめつちをも　さゝふる手（て）は
などかその子（こ）らを　まもらざらんや

五　おとろへたる　このこゝろの
つぶるゝぞうりの　おもにをみよ

六 まぬかるべき　みちあからんや
やよちゝふのへり　やすみをえよ

七 主のめぐみむ　ひと日(ひ)だにも
のむるときあくて　つねふたてり

八 いざやこれむ　みあしもとに
こが荷(に)をおろして　うたをふあむん

50 第五十　NOGEYAMA. 77777. B♭

一 めぐみふとめる　まことのおみむ
つみ咎をかして　逆(さか)ひしこれを
すてずきためず　あわれみたまふ

二 これをあわれむ　そのみこゝろむ
ちひろのうみの　そこよりふかく
くめどもつきず　いやましふかし

三 くめどもつきぬ　いのちのみづを
をしみたまむで　のわけるこれふ
あたふるかみむ　めぐみふとめり

51　第五十四　NEARER HOME. 6686. (S.M.) A♭.

一　かみのまことと　いものごとし
さのまくなみふも　うごのぺてろ
いものでとを　うのまてと
みめぐみとなもに　よろたろへよ

二　かみのめぐゑ　いろのまさで
このぞへつくすべき　ときやなうらん

三　よわきひれも　てゝろつくし
みうゑふすゞのらべ　つよくぞならん

四　まことにより　めぐみふより
のぞゑをいだきて　やすきにをらん

52　第五十二　WAKE. 8888. (L.M.) G.

一　めぐみのひのりさ　いたらぬくまなし
まよへるこゝろの　やみをもてらせり

二　ねむれるよのまも　ひゞの身をむなれず
めさめてのちふも　ゆくみちをまもる

三 エホバのさかえを 彰はさんがために
ちからをつくして みちにすゝむべし

53 第五十三 SPANISH HYMN. 77777. Ab.

一 めぐみにとめる わがかみエホバ
よわきわれらを み手もてさゝへ
あしたゆふべに みちびきたまふ

二 み手をはなれて にげさるわれを
なほもみすてず めぐみをくはへ
つみのふちより とり出したまふ

三 かくもしのびて かずならぬ身を
あはれむかみの そのみこゝろは
はかりしられず 奇しきめぐみぞや

54 第五十四 GOD'S LOVE. 767676. G.

一 神のかはらぬ あいをうたふ
たゝへのうたは いとうるはし

一

うみの音(と)さゞれ　こゑにまさり
いやたからのに　とほくきこゆ

二

耶穌キリストの　人(ひと)にあたふる
みいつくしみは　なににたとへん
へだてぬともの　なさけよりも
いとゞまさりて　せちにぞある

三

はゝの愛(あい)より　こえてあつく
地(ち)のもとゐより　さらにふかし
ひとのおもひの　うへにそびえ
おほそらよりも　ひろらかなり

四

とこのたましひの　うるたからは
地(ち)のちよろづの　珠(たま)にまさる
きみのたまむる　みかむりには
王(わう)のかゞやきも　いかでおよばん

55 第五十五 GOD IS LOVE. 8787. D♭.

一 めぐみのひかりは　われらがさまよふ
やみぢをてらせり　かみはあいなり
（われらもたふとき　み神(かみ)をあいせん）

二 ひとはほろび世(よ)は　うつりかはるも
めぐみはうごかじ　かみはあいなり

三 うきくもおほへど　あいのみかほは
つねにかゞやけり　かみはあいなり

四 なやみのときにも　のぞみをあたへ
なぐさめたまへり　かみはあいなり

56 第五十六 AUTUMN. 87878787. F.

一 あなくすしきかな　主のみちからは
あめにもつちにも　みちてたらひぬ

かみのみめぐみは　ながれてつきず
よろづのくにまで　うるほひわたる

二
ひとりの御子(みこ)をは　このよにくだし
つみびとをまねき　すくはしめたまふ
すくひをうけたる　わがともがらは
やすらけきみちを　ふみてたのしむ

57 第五十七 SYCHAR. 8787. D.

一
よろこびたゝへよ　めぐみのかみを
すくひのちからは　よにあらはれきぬ

二
あだにとらはれて　くるしむものも
すくひのちからに　やすきをうべし

三
あくまのとりてを　みなときはなち
くびのせわしかせ　くだきてはてり

四 こゝろはかなしみ うれふるものも
すくひのみことは よろこびあふる

五 よるべなき身（み）にも たすけをうけて
ゆたけきめぐみは なぐさめられぬ

六 めしひれ目（め）ひらき やみよのものも
あまつひかりにて みくにをぞみる

七 よのすくひぬしれ 耶穌のほかなし
ひたすら耶穌はぞ この身（み）をまかせん

58 第五十八 THE SWEETEST NAME. 8787. F.

一 めぐみゆたかなる われらのかみは
よをいつくしみて み子（こ）をくだせり
われらこのかみと 耶穌キリストを
つねにいつくしみ ほめたゝへまし

二 かみのみ子（こ）ニスれ さかえをすてゝ
いやしきこの世（よ）に くだりたまへり

三　われらにかはりて　耶穌はくるしみ
じふじかの上にて　血をながしたまふ

四　きよきちしほにて　つみにけがれし
わがたましひをも　あらひきよめぬ

59　第五十九　ARMSTRONG. 8787. Eb.

一　われのみをすてゝ　はなれしときも
かみわれをすてず　つねにまもれり
われかみのために　この身とたまを
さゝげまつるとも　むくゆべきなし

二　われちゝのかみに　そむきしときも
かみはいつくしみ　み子をたまへり

三　われかみのみ名を　けがしゝときも
かみはあはれみて　われをきよめぬ

四　われかみのまへに　つみ咎をかして
死ぬべき身なるを　かみはゆるせり

60 第六十 MENDELSSOHN. 7777777. F.

一
あまつつかひの　つぐるをきけよ
けふわれらの爲　すくひのぬしは
ダビデのむらに　うまれたまへり
これよろこびの　おとづれなるぞ

二
たみみなたちて　よろこびいさめ
つみに死たる　世のこどもらも
われらのきみと　ともにうまれて
ふたゝびちゝの　家にぞかへらん

三
みなめをさまし　よろこびあふげ
きみはあさ日の　のぼれるごとく
くらきこの世を　てらしたまへば
いまぞさかゆる　よものくにたみ

四
あまつつかひと　ともにうたへよ
たかきところに　かみにはさかえ
地にはおだやか　ひとにはめぐみ
これわがきみの　たまものなるぞ

61 第六十一　ZADOCC. 777777. A.

一　ダビデのすゑの　ふたりはともに
そのふるさとの　ユダヤのむらに
ときのみつるを　よろこびまてり

二　ときこそみつれ　ひとりのみ子(こ)を
世(よ)にたまはりて　みまつりごとを
かたにぞおはせ　よき名(な)をあたふ

三　その名(な)は世にも　たぐひはあらず
平和(へいわ)のきみは　とはにぞいます
とこよのちゝと　たれかははめぬ

四　ひがしのかたの　はかせはきたり
たからのはこを　ひらきてさゝげ
ゆめにぞかみの　みつげをうけし

五　かゞやくほしの　ひかりをたづね
けさんと爲れど　へロデはうせて
ユダヤのやみは　ひるとこそなれ

62 第六十二 DIX. 777777. Ab.

一 ほしをみるべに はかせがとほく
きたりてきみに まみえしごとく
われらをきみに みちびきたまへ

二 いとよろこびて 天地(てんち)のきみなる
聖子(みこ)をうぶやに をがみしごとく
きみをあがめて つかへしめよな

三 たからのはてを みまへにひらき
ゐやしろとして ささげしごとく
みなわがものを そなへしめよな

四 みちびくほしを たよらぬくにゝ
ゆくその日(ひ)まで われをまもりて
まさしきみちを ふましめたまへ

五 あまつみくにを てらすひかりは
ひつきにあらぬ わが主のさかえ
そをたゝへつゝ うたはせたまへ

63 第六十三　BURNS. 8S9S.6S6. Eb.

一　あさ日(ひ)はのぼりて　よをてらせり
くらきにすむひと　きたりあふげ
ちゑにとめるもの　よにいでたり
おろかなるひとは　きたりまなべ

二　ちからのあるもの　よにのぞめり
よわきそのひとに　きたりたのめ
平安(やすき)をたまふもの　よにくだれり
くるしめるひとに　きたりうけよ

三　なぐさめたまふ者(もの)　よに生(あれ)ます
うきひあるひとに　きたりつげよ
生命(いのち)をたまふもの　よにきたれり
つみに死(し)せるひと　きたりいきよ

四　拯救(すくひ)をたまふもの　よにうまれぬ
たかきもひくきも　きたりいはへ

あめつちのあるじ　よにあらはる
よろづのものみな　うできうたへ

64　第六十四　LAUD. 8686. (C.M.) G.

一　たみみなよろこべ　きみきたりぬ
よろづのものいま　きみをみよや

二　すべてこのきみの　たすけをうく
野(の)もやまもうみも　いはひうたへ

三　つみもかなしみも　おひなげらて
のろはれし地(ち)にも　めぐみわきな

四　まことにたゞしき　さばきをうけ
そのいつくしみに　みなしたゞへ

65　第六十五　HYMN. 8686. (C.M.) A.

一　わがすくひぬしを　おもひみれば
みのはもこゝろも　いとうるはし

二　此(この)よにたぐふべき　ものはあらじ
みつかひらもみな　ほめたゝへぬ

三　御座(みざ)よりのぞみて　よをあはれみ
さかえをもすてゝ　しふじはつけり

四　かゝるめぐみをば　なすらふべしや
なれそのかみを　ひたすらほめん

66　第六十六　AZMON. 8C86. (C.M.) A♭.

一　よの福(さい)はひとなる　耶穌きまして
したがへるものゝ　のりとなれり

二　よの福(さい)はひとなる　主はしたがひ
をしへをまもらむ　みくにゝいらん

三　よの福(さい)はひとなる　主はつかへて
かみまともなれば　おそれぞなき

四　よの福(さい)はひとなる　みちをあゆみ
耶穌をともに天(てん)の　よつぎをぞえん

67　第六十七　BOYLSTON. 6686. (S.M.) C.

一　かみがくだり　ひとゝなりて
ユダヤにうまれし　これ耶穌なり

二　をさなきより　おやにつかへ
おこなひしにとは　わがのりなり

三　へりくだりて　なやみにたへ
宣(ちき)にしをしへは　わがみちなり

四　ひとにかはり　じふじにつきて
ながこゝちしは　世(よ)のすくひなり

68　第六十八　HEINLEIN. 7777. F.

一　四十日(よそか)ふるまで　かてをたてとも
あたの詐術(てだて)に　わが主はかてり

二　そのたゝかひの　ためしにならひ
耶穌をほめつゝ　あたにかつべし

三　わが身(み)もよくも　この世(よ)のとみも
さかえもすてゝ　きみにしたがはん

四　かみのをしへの　みたまのつるぎ
ふりかざしつゝ　サタナをうたなん

五　かちにし耶穌よ　ちからをそへて
せめくるあたに　うたしめたまへ

69　第六十九

MANNHEIM.　878787.　E.

一　われらのきみなる　耶穌キリストは
いとたかきかみの　み子(こ)にしませど
いやしきこのよに　うまれたまへり

二　かわけるつちより　いづる草木(くさき)の
みるべきいろかも　あらざるごとく
ひとにはすてられ　いやしめられぬ

三 このよのうれひと　なやみをしのび
わきちにおもてを　おほへるごとく
かなしみのひとゝ　よばれたまへり

四 いとたふときかみの　み子(こ)なる耶穌も
ひつじのごとくに　ひきいだされて
じふじかの上(うへ)にぞ　ほふられたまふ

70 第七十　GETHSEMANE. 777777. D.

一 ともよサタナの　つよきをしらむ
ゲッセマ子なる　主のくるしみを
わが身(み)にしめて　みあとふみゆけ

二 ピラトのにはの　わが主をみなば
世(よ)の苦(く)もむちも　ものゝうずのれ
十字架をおひて　きみにしたがへ

三 カルバリやまの　じふじかのうへに
ことはやなると　よべるみこゑを
みゝにとゞめて　主の死(し)をまなべ

四　そのむねをおきし　みはかのうちに
　　そのげものてらず　主はよみがへる
　　われをもともに　よみがへらせよ

71　第七十一　ARLINGTON.　8686.　(C.M.)　F.

一　わがきみはしにて　われをすくひ
　　いのちを予(あた)へんと　血(ち)をながせり
二　われらにかはりて　なふじにつける
　　そのいつくしみは　たぐひあらず
三　耶穌わがつみゆゑ　死(しに)しときに
　　日(ひ)はくらくなりて　ひかりは消(き)ゆ
四　十字架をあふぎて　みなかなしみ
　　かみにすがりてぞ　いたみなげく
五　なみだもめぐみに　むくいがたく
　　わが身(み)もたまをも　ささげまつる

72 第七十二　GOTHA. 8787. D.

一　ハレルヤハレルヤ　こゝろもくちも
たかきみそらなる　かみをたゝへよ

二　よの爲(ため)ぶふじかに　かゝりたまひし
すくひのぬしこそ　よみがへりたれ

三　おほいしの戸(と)すら　ひらけてけされ
くちざるいのちに　かへりたまへり

四　そのちからにより　これもかちえて
きみをとこしへに　いのちながらへん

五　あきの田實(たのみ)なる　むつほの耶穌を
のぼりしあめより　ふたゝびきまさん

73　第七十三　ASCENSION.　7777774. D.

一
ほろぶるものを　あがなふために
むちとくるしみ　死をさへうくる
たふときみ耶穌の　よみがへりにし
けふの日いはへ　ハレルヤ

二
よのつみびとを　すくはんためにと
十字架につきて　みむねかないりし
世にかてるきみ　耶穌のみまへに
かちどきあげよ　ハレルヤ

三
たふときみ耶穌を　あめなるちゝの
みこゝろなして　さかえにかへり
いまもみくにゝ　みつかひたちの
たゝへをぞうく　ハレルヤ

四

きよきちゝと子 みたまにうたへ
あまつつかひよ ハヽレルヽヤ
あらゆるひとよ ハヽレルヽヤ
つねにたえせで ハレルヤ

74 第七十四 HARWELL. 8787877. F

一

御世をしろしめす おほきみ耶穌を
ほめたゝへまつる そのこゑごゑを
うみにもやまにも ひゞきわたりぬ
ハレルヤハレルヤ ハレルヤアーメン

二

さかえあるきみよ 御世とこしへに
しろしめしたまへ きみゞのめぐみの
ひかりあまねく かゞやきわたる
ハレルヤハレルヤ ハレルヤアーメン

三

よゞのすくひぬしの みこゑをきゝて
あめつちもうみも すぎさるときに

てゞのねの琴(こと)もて　よろこびうたん
ハレルヤハレルヤ　ハレルヤアーメン

75 第七十五　GREY. 7775. F.

一 世(よ)ふれまたなき　たふときたから
ヱれこそ得(え)つき　主ヱゞのもの

二 主わヱグさいし　てんふてとりなす
またヱグ王(わう)なり　全能(ぜんのう)のヱう

三 またヱゞの預言者(よげんしゃ)　くらきみちより
ヱれをみちびく　ひかりなり

四 主のみつむされ　たへふくすしく
いやすちからの　義(ぎ)のひかり

五 主むヱゞのへいヱ　そのきよき身(み)を
ヱゞのおゞのなひふ　にへとせり

六 主エスきみこそ　わがいのちなれ
なぐさめとなり　義となれり
七 主はわがたから　地にてかけなく
天にのぼりなむ　わがかむり

76 第七十六　LENOX. 666888. Ab.

一 おきよさめよ　わがたましひ
汝がのわづらひ　はらひすてよ
血しほそそぎたる　たふときいけにへ
わがためあらはる

二 たかきかみの　みくちの側に
わが中保者は　たちたまへり
そのみてのうちに　わが名をもらさで
しるせるうれしさ

三 きみはうへに　いまながらへ
つみびとのため　いのりをなし
十字架のちしほの　いさをによりてぞ
とりなしたまへる

四 つぶみかこれ　むややむらぎ
そのゆるしの　みてゑきてゆ
子(こ)とせられたれば　おそれずちかづき
アバ父(ちゝ)とよばはん

77 [illegible]　EVAN. 8686. (C.M.) Ab.

一 ちりにしひつじの　ぬしなるきみ
ゆたけきめぐみぞ　つねにあたふ

二 なつの日(ひ)ふゆの夜(よ)　そりにふきて
まよへるひつじを　はぐくみたまふ

三 豺狼(おほかみ)きたりて　そてあふときも
いのち溢をしまで　ふせぎまもる

四　あやふきことなく　いとやすけく
牧者(ぼくしや)のみもとに　とはにいてぞん

78　第七十八　AUTUMN. 878787. F.

一　耶穌ぎみのほかに　たすけはあらず
そのいつくしみは　世(よ)にたぐひなし
わを主にさからひ　あたゝりしとき
耶穌われのために　十字架に死(し)せり

二　世(よ)にいましゝとき　わづらふ(ヲ)ものを
いやまゝでとくに　いまなほたすく
耶穌のめぐみをば　われはわすれじ
あしたにゆふ(ウ)べに　ほめたゝへやなし

79　第七十九　CHIMES. 878787.. F.

一　サタナはほろびぬ　たゞよろこべ
主なる耶穌きみは　死(し)にさへかちぬ

ねむりをさまして　みこゑをきけよ
キリストぞいのち　まことぞみちぞ

二

よろづのくにびと　みまへにきたり
みつぎをさゝげて　よろこびうたへ
こよなきめぐみの　すくひのぬしを
おほきみとあふぎ　あがめまつろへ

三

あやめる世(よ)のひと　わが主にさけび
おもきつみのにを　おろしていこへ
ふたゝびつみにぞ　身(み)をちかづけで
すくひの御旗(みはた)を　あふぎてのぞめ

四

すくひぬしいま　あたをきよめて
みいづかゞやける　天(てん)に坐(ざ)したまふ
まことの悔(くい)もて　主とともあらば
そのかちいつねに　われらにぞつかん

80

第八十　FRENCH. 57577. A♭.

一　耶穌きみの　すくひのみづの
　　なかりせば　つみのはのはに
　　われはろぶべし

二　わきいでゝ　めぐみながるゝ
　　いけるみづ　くみてのちこそ
　　こゝろやすかれ

三　いけるみづ　くみたるわれら
　　よのたびぢ　かわかでぞすぎん
　　あめにゆくまで

81

第八十一　TOPLADY. 777777. B♭.

一　ちよへしいはよ　われをかくしね
　　さかれしわきの　みづと血(ち)しほに
　　わがつみとがを　あらひきよめよ

二　よわきわが手は　おきてにたへず
もゆるこゝろも　たぎつなみだも
つみをあがなふ　ちからはあらじ

三　手にものもたで　たゞじふじかに
すがるこの身を　あはれみたまへ
みすくひなくは　ながく死ぬべし

四　いきもたえはて　まぶたもとぢて
みぬよにうつり　きみをみるとき
ちよへしいはよ　われをかくしね

82　第八十二　DORRANCE. 8787. E.

一　わがちのともなる　耶蘇のめぐみと
そのいつくしみは　おやにまさり

二　われらにかはりて　じふじかに死し
耶蘇のいさをにぞ　みなすくはるゝ

三　かみにしいませど　ひとゝなりてぞ
つみびとのうちに　すみたまひける

四　いとたかきかみよ　いやしきわれを
耶穌の名によりて　ちかづけたまへ

83　第八十三　DYKES. 8787. G

一　みおきてをかしゝ　つみあるわれの
ちゝにゆくみちは　たゞ耶穌のみぞ

二　けがれしこゝろの　まどひをさりて
きよむるまことは　たゞ耶穌のみぞ

三　死ぬべきよにすむ　死ぬべきわれを
いかするいのちは　たゞ耶穌のみぞ

四　まことゝいのちと　みちなる耶穌を
いやふかくなるを　われはねがへり

84　第八十四　ALLETTA. 7777. F.

一　耶穌はわれらが　こゝろのやみを
てらすまことの　ひかりにぞある

二　耶穌のひかりは　つねにてらして
　　ともにしあゆむ　われくらからず

三　みちさへわかぬ　やみの夜(よ)おろも
　　ひかりてらせむ　われはまよはじ

四　よのうきくもよ　耶穌をかくすな
　　ひかりうせなむ　われはしぬべし

五　あまつみくにに　かへりてのちも
　　ちちのみまへに　ひかりをあふがん

85　第八十五　THE SWEETEST NAME. 8787. F.

一　耶穌にまさる名(な)は　あめつちになし
　　ちちのみこころを　世(よ)にあらはせり
　　　わがきみ耶穌よと　よろこびうたふ
　　　そのきよきみ名(な)は　よにたぐひなし

二 わがすくひぬしは　天(てん)よりくだれり
萬民(ばんみん)をすくふ故(ゆゑ)に　耶穌とはよびぬ

三 じふじに釘(つけ)しとき　かゝげしみ名(な)を
よろづのくにたみ　いまもなほ愛(あい)す

四 ちゝなるみかみの　みぎにのぼりて
御世(みよ)しらす耶穌は　あたへざるなし

第八十六　CORONATION. 8686. (C.M.) F.

一 萬民(ばんみん)よエスの名(な)の　ちからをほめ
みつかひもふして　主とあがめよ

二 祭(さい)だんよりさけぶ　あかしびとよ
エセのすゑをほめ　主とあがめよ

三 ヤコブのやからよ　めぐみをもて
あがなひしきみを　主とあがめよ

四　主のあいを志たふ　つみびとらよ
ゑものをつらねて　主とあがめよ

五　よろづのやからと　すべてのたみ
みいつをかしこみ　主とあがめよ

六　とこしへのうたに　こゑをあはせ
ちよろづのものゝ　主とあがめよ

87　第八十七　RATISBON. 777777. D.

一　かみのみこなる　わがなひぬしは
あめにかへりて　さかえをまとひ
ちゝのみぎてに　いましいませり

二　ひとにころされ　むぢうけしかど
よろづのものゝ　かしらとなりて
ちゝのみぎてに　いましいませり

三
これをめぐみて　いやいつくしみ
かはらでつねに　とりなすために
ちゝのみぎてに　いまはいませり

四
たのしみみつる　あまつすまひに
我（われ）をむかへんと　そなへのために
ちゝのみぎてに　いまはいませり

五
はかよりこれを　よみがへらせて
みまへにやすく　たゝするために
ちゝのみぎてに　いまはいませり

88　第八十八

KENSINGTON.　878787.　Eb.

一
みよわがなひぬし　さかえにみちて
あまつみつかひを　みともにひきゆ
ハレルヤハレルヤ　こゝの主きませり

二
いまかくさかえの　かゞやく耶穌を
あざけりきずつけ　ころしゝものも
おぢつゝふぢつゝ　なきかなしめり

三　すくひをえしもの　さかえのきみの
あがなふしるしの　きずのみあとを
ゑみつゝゑみつゝ　みてよろこべり

四　よのひとことごと　かしこみつかへ
よろづのくには　きみしろしめす
たゝへよたゝへよ　こゝの主のみなを

89 第八十九 PENTECOST. 8S8. (L.M.) G.

一　めぐみあるみたま　きよきてんの鴿(はと)よ
なぐさめをもちて　いまくだりたまへ

二　ねがはくはこれの　みちびきとなりて
かしづきとなりて　つねにまもれかし

三　まことのひかりを　こゝにあらはして
あきらけきみちに　したがはせたまへ

四 みたみのこゝろに
つゝしみをあたへ
かみよりむなるゝ
ときさあからしめよ

五 ながちゝのかみと
ともにすまふべき
いのちのみちなる
耶穌にゆかしめよ

六 キリストにありて
そのみさとしより
まよひいづること
なからしめたまへ

七 つひのやすみある
かみとともにすむ
とこしへのさちに
あづからせたまへ

90 第九十

HEINLEIN. 7777. F.

一 みたまよみたま
をかせるつみを
あらむにてらし
くいさせたまへ

二 みたまよみたま
けがれし身をむ
きよめてつねに
みやとしたまへ

三 みたまよわたま　よわきこの身(み)を
つよめてわたふ　うたしめたまへ

四 みたまよみたま　まよへるわれを
たゞしきみちへ　みちびきたまへ

五 みたまよわたま　いのりをたすけ
ちゝのみむねに　かなはせたまへ

六 ちゝとみ子(こ)より　くだるみたまよ
われをはなれで　なぐさめたまへ

91 第九十一　ST. CUTHBERT. 8685. Eb.

一 わがきみてのよを　さりてのちわ
なぐさむるものを　おくりたまふ

二 へりくだるものを　みやとなして
ちからとよろこび　みたしたまふ

三　めぐみのみこゑむ　つみをゆるし
おそれをしづめて　やすくせり

四　きよきにすゝむと　あしきにかつ
ちからはみたまの　たまものぞ

五　みたまよあわれみ　わがこゝろを
きよくしてみやと　なしたまへ

92　第九十二　BAXTER. 57.577. E♭.

一　なぐさめを　そゝぐみたまよ
うきくもの　うゝるこゝろを
ひらきみちびけ

二　わがつみを　きよむるきみよ
みちびきて　あがなひの血（ち）に
わきをあらひね

三　うたがひの　くもふきはらし
みすくひの　ひかりをしめせ
くらきこゝろに

四　あらたなる　いのちをあたふ
かみのはか　たれかよりてか
死をのがるべき

五　わがこゝろ　みたまのひかり
うけてこそ　あきらかにしれ
みつのみなをも

93　第九十三　TRUSTING. 7777. F.

一　かみよみまへに　つどふわれらに
みたまをくだし　みちびきたまへ

二　まごゝろをもて　うたといのりを
さゝぐるかたに　みちびきたまへ

三 みふみのむねを　ふかくこゝろに
おさむるかたに　みちびきたまへ

四 つみをばくいて　耶穌によらしめ
すくひのみちに　みちびきたまへ

94 第九十四　BOHEMIA. 75757575. D.

一 つみのくもりに　みちさへも
ふみわけがたき　世のなかを
おもにおひつゝ　たびびとの
おぼつかなくも　たどりゆく

二 おつきばきゆる　しらつゆを
いのちとたのむ　うつせみの
むなしきからに　なるまでも
つみのちまたに　さまよへり

三　うきよのさまの　はかなきを
あはれみたまふ　あまつかみ
ひとりのみ子(こ)を　をしみなく
あたふる惠(めぐ)みの　はかりなや

四　きよきみたまの　たすけにて
むねのうきくも　はれわたり
すくひのぬしの　みくにをば
あふぎみるこそ　うれしけれ

95　第九十五　DAWNING.　57577.　A.

一　おそろしや　のどけきうらと
みるほどに　やがてほのほは
ふりきたりけり

二　ときのまに　ソドムのむらは
ほろびぬと　きけどさとらぬ
ひとのおろかさ

三　ひとはみな　くちはてぬべき
かてのため　にしにひがしに
はしりゆくなり

四　わがうみの　そのいましめを
うちわすれ　ほろびのまちに
すむひとよきけ

五　あたらこの　めぐみの日(ひ)をば
いたづらに　あかしくらして
死(しな)ばいかにぞ

六　ためらはで　あまつつかひの
てにすがり　かみの聖山(みやま)に
いそぎのぼれよ

96　第九十六　RUTHERFORD.　76.76.76.　F.

一　いそげやいそげ　世(よ)のたびびと
みちにていこひ　なたゆたひそ

ときうつりなば　よるきたりて
やみとなやみゐ　かてまるべし

二

そらかきくもり　あめふりしき
かぜすさまじく　ふきおろして
死(し)のなみたゝく　うちよせつゝ
汝(な)がゆくみちを　ふさぎとゞめん

三

のどけきうらと　みるまのうちに
やがてほのほは　ふりきたれり
あなおそろしや　しばしのまに
ソドムのむらは　ほろびうせぬ

四

かみのつかひの　みちびくまゝ
やまべをさして　のがれはしれ
うしろをみつゝ　なとゞまりそ
いそげやいそげ　よのたびゞと

97 第九十七 MAGDALENE. 75757575. F.

拯救 警告

一
あだなるはなの
おいもわかきも
かぜにさそはれ
あるはしばらく
世(よ)にすめば
さだめなき
あるはちり
とゞまりぬ

二
さきだちゆくも
つひのすみかは
かぎりしられぬ
くるしみのはか
おくるゝも
うへとした
たのしみと
なきぞかし

三
やようかれゆく
汝(な)があくがるゝ
さそひゆくべき
こよひなが身(み)に
たましひよ
そのはなを
やまかぜに
ふかぬかは

四
のちの世(よ)までも
にはひてさらに
たぐひならねば
なごりもあらぬ
とこしへに
ちりのよの
をしむてふ
はなをみよ

98　第九十八　BLUMENTHAL. 7777777. E.

一
つみをになへる　よのたびぢとよ
シオンのみ門(かど)に　いそぎてはしれ
めぐみのみての　丘をひらくまで
かしてをたゝき　なげきていのれ

二
めぐみのきみの　みゝをかたぶけ
なげきのなみに　みこゝろうごき
そこにひかりを　あらはすまでは
さけびていのれ　なきてたゝけよ

三
つみのおもにを　になへるひとよ
なにをかなしみ　なにをなげくや
こゝにとゞまり　ゆかじとするか
たびぢはつひに　をはるときあり

四
こゝろのこしに　おびしていそげ
なみだぬぐひて　かなしみなさで
つねにかゞやく　たまのみかほを
まよひのくもの　はれまにのぞめ

99

第九十九　STEPHANOS. 8583. G.

一　つかれたるものは　きたりきけ
息(いこ)はせんとの主の　みこゑ

二　あめつちのきみの　うけたまふ
いばらのみかむり　見(み)よや

三　十字架にながれし　ちしほにて
つみもまがごとも　きえぬ

四　なやみをしのびて　すゝみゆけ
たのしきみくには　ちかし

五　あめつちはほろび　うするとも
など主にある身(み)は　ほろびん

100

第百　HARRIS. 77577. C.

一　あすありと　ほこれるひとよ
いそぎきけ　けふぞつぐる
よろこびのこゑ

二　けふといふ　けふそのこゑの
きこえぬる　けふのすくひを
なほざりにすな

三　たれにても　きたれるものゝ
すてじとの　めぐみのちかひ
たのめつみびと

101　第百一　FOUNTAIN. 8.6.8.6.8.6. Bb.

一　さまよへるものよ　たちかへりて
あまつふるさとの　ちゝをみよや
つみをばくやめる　そのこゝろも
ちゝよりおくりし　たまものなり

二　さまよへるものよ　たちかへりて
ちゝなるみかみの　そのみまへに
まことのくいをば　いひあらはせ
ひともしらずとも　ちゝはしれり

三 さまよへるものよ　たちかへりて
耶穌のあしもとに　とくひれふせ
きみはあはれみて　みてをのべし
こぼるゝなみだを　ぬぐひたまはん

四 さまよへるものよ　たちかへりて
十字架のうへなる　耶穌をみよや
血しほのながるゝ　みてをひろげ
いのちをうけよと　よびたまへり

102　第百二　TO-DAY. 6161. F.

一 けふ主がまねく　きたれや
やみぢあゆむ　さまよふひと

二 けふ主がまねく　みまへに
へりくだりて　したがへ

三 けふ主がまねく　死のとき
さばきの日も　とほからじ

四　けふ主がまねく　いそぎて
さけどころを　もとめよ

五　いまぞまねく　みたまわ
身もこゝろも　まかせよ

103　第百三　DORRANCE. 8787. E.

一　うきよのなみまに　たゞよふものを
耶蘇きみあされみ　来よとぞまねく

二　むかし御弟子らの　おやわゐられて
きたりしごとくに　きみわゐたがへ

三　きえうするたから　くつるこがねわ
ひれふしつゝへで　きみわゐたがへ

四　よろこびゝなしみ　そのをりをりに
きみのみまねきの　こゑぞきこゆる

五　みこゑのまにまに　きみにしたがひ
あめなるみくにゝ　すゝませたまへ

104　第百四　ZEPHYR 8388. (L.M.) B♭.

一　とぼそにたゝずむ　たびゝとをみよや
いとものしづかに　おとなひたまへり

二　さきにもしむく　たゝきたまひしが
いまもたゝずみて　應へをまちたまふ

三　いともあいらしき　たびゝとのさまよ
おのがあたをさへ　かくまでしたひぬ

四　カルバリやまにて　仇せしわれらを
なほいつくしみて　ともとなりたまふ

五　十字架のうへにて　いのりし君こそ
世のつみびとらの　よるべきともなれ

六　この身にも主にも　仇なすつみをば
いざおひしりぞけ　きみを入まつれ

105 第百五 COURAGE. 8884. E♭.

一 耶穌のこゑきけば　つみあるものなも
なぐさめあれよと　サレムなも山にも
よばゝる
そのみこゑの　うるはしさよ
たぐふべきものはあらじ

二 つみになやむとき　君をおもひいでん
來れよすくはんと　まねきたまへるぞ
うれしき

三 たましひのうみの　なみたちさわげど
ガリヽをしづめし　きみのやすかれと
宣たまふ

四 くれてこゝろくもり　おぢまどふときは
エス天を指ていふ　とこしへのうたを
うたへと

106　第百六　I AM COMING. 6686. (S.M.) E♭.

一　十字架の血に　あらはれんため
来よとのみこゑを　われはきけり
主よわれは　いまぞゆく
おふじかの血にて　あらひたまへ

二　よわきわれも　みちからをえ
この身のけがれを　みなぬぐはれん

三　まごころもて　いのるわれの
こころはめぐみの　こゑはきてゆ

四　ほむべきかな　おふじかのあい
われをすくふ主は　ほむべきかな

107　第百七　VOX DILECTI. 8686886. E♭.

一　とくきたりやすめ　われのむねに
つかれしかしらを　うちよせよと

よぶ主のこゑに　したがひゆき
みもとにいでてひを　うるうれしさ

二
われてそあたふれ　いのちのみづ
ろゑけるもろびと　きたりのめと
耶穌きみのひらき　たまふいづみに
つきせぬいのちの　さちをぞうる

三
ゑれ世(よ)のひかり　くらきにすむ
たゑみなきたりて　てらされよと
よぶ主のめぐみの　ひかりをうけ
まよはでみくにへ　ゆくたのしさ

108

第百八　IRENE. 75757575. G.

一
つゑのけがれを　おはいれて
まことのみちを　ふみまよふ
よをべあむれゑ　み子(こ)をさへ
くだしたまへる　あまつちゑ

二 身(み)をひくゝして　よのなかゐ
うまれたまひし　すくひぬし
すくひのうぞを　うちひらき
ひとをみちびく　うしこさよ

三 おのれをたのゑ　おのが身(み)の
つみをもゑらで　死(し)のふちゐ
ゑづめるひとを　わがなひて
たすけたまへる　すくひぬし

四 ゑふじのうへに　血(ち)をながし
その血(ち)しはにて　よのつみの
けがをあらひ　もろびとを
あらたなる身(み)と　なしたまふ

109 第百九 DIX. 777777. Ab.

一 さうえのきみの　ゑふじうをみをバ
たふ(チ)ときものも　ものゝうのずうむ
はこるべきこと　われゐいあらじ

二　かみなる耶穌の　ゑふじかの國に
なにかはわれを　つみよりすくはん
うきもなやみも　血(ち)にてそあらへ

三　手足(てあし)とかうべに　ちしほながるゝ
あいをみよかし　あまたのつみを
ひとりの御身(おんみ)に　せおひたまへり

四　よろづのものを　みなわがきみに
さゝぐるとても　贄(にへ)にはたらじ
わが身(み)もたまも　われはをしまじ

五　みじかきこの世(よ)　はかなきいのち
十字架につきし　きみのめぐみに
つきぬいのちを　うるぞうれしき

第百十　DYKES. 8787. G.

一　こごのすくひぬしに　おふじうのもとに
こきらをひきてぞ　やすきをたまふ

二　かしてふくすしき　いづそれひらけ
めぐみむおごのれて　こきをいやせり

三　こききよきこのむの　かゝやくきしに
上(のお)らんときまでも　ちづうふいてむん

四　よこきたましひよ　おふじうにきたり
うのいつくしみを　耶穌ふもとめよ

五　いまぞあけぼのゝ　はしあらむれぬ
みよそのひうりむ　こきをめぐきり

六　かそのこひつじよ　おふじうのうげを
こごのうへふおはひ　こきをやすめよ

111　第百十一　LENOX. 6666888. A♭.

一
よろこばしき　角(つの)ぶえもて
よろづのくにびと　きたれるをなきと
こゑひゞかせ　ふきなめせよ
よろこびのとしの

二
地(ち)のはてより　あがなはれし
よろこびいさみて　いそぎたちのへき
地(ち)のはてまで　つみびとらよ
汝(な)がふるさとへと

三
わが大(おほ)いなる　耶蘇は全(また)き
つかれしたましひ　やすきにいるべし
祭司(さいし)のをさ　あがなひせり
なげきをわすれて

四 よろこばしき　としきたれり
あがなはれし　つみびとらよ
よろこびいさみて　汝(な)がふるさとへと
いそぎたちのへを

一一二 第百十二　FOUNTAIN. 8686886. Bb.

一 イマヌエルよりぞ　ながれいづる
血(ち)しほのいづみに　つみをあらへ
十字架にかゝりし　ぬすびとすら
このいづみをみて　よろこびたり

二 ヱきらもいづみを　ふかくくぶり
くれなゐのつみを　みなあらはれん
かみのこひつじの　ながせる血(ち)の
きよむるちかられ　かぎりあらじ

三 かみのえらみふし　そのたみな
あがなはるゝまで　ヱきいづべし
よをさりてのちも　いやけだかき
しらべをかなでゝ　すくひをほめん

四　とがなぶき舌(した)を　むうにいりて
うごのずなるとも　でんふてうたむん
とぎいけるときも　死(しに)てのちも
イマヌエルの血(ち)を　とがうたとせん

113

第百十三　THE GATE AJAR.　8787.　Eb.

一　たへなるめぐみや　みのどいひらけ
主のみいつくしみ　世(よ)ふのぶやけり
　たへなるめぐみや　あめなるみかどは
　ひらけて　まれをまてり

二　いづてのたみらも　すゝみだにせむ
よろこびむのへて　いきたまふべし

三　むらがるあたをも　ふそれですゝめ
なやまれ多(おほ)くとも　かちの日ちかし

四　みまへふのちらうた　うたふそのとき
さうえのうむりを　うらべわぞうけん

114 第百十四 GERMAN. 57577. F.

一 みめぐみの ひかりはあめの みかどより
いでゝあまねく 世(よ)をてらせる

二 死(し)のかげの おほへる谷(たに)にも みめぐみの
ひかりをうけて み名(な)をこそよべ

三 主のみこゑ つかれしみゝに きこゆなり
つみのおもにを きたりおろせと

四 いまこの日 みこゑきこのすべ すゑの日に
あまつよつぎと いかでなるべき

五 主のみこゑ よろこびきゝて みかどより
いづるひかりを たづねてのぼらん

115 第百十五 EASTER HYMN. 75757575. B♭.

一 あまつきしみづ ながれきて
あまねく世(よ)をぞ うるほせる
なげくのこける こぐたまも
くちていのちを かへりけり

二　あまつましみづ　ながれずば
つちよりいづる　みづはなど
ひとのたましひ　いやすべき
くめやめぐみの　ましみづを

三　あまつましみづ　ちよたえず
ゆたかにながれ　ひとみなに
いこひをえしむ　主(しゅ)のあいは
いづみとうもに　あふれけり

116　第百十六　MERCY. 7777. G.

一　かみのめぐみは　なはうせさらで
つみのをさなる　これをもたすく

二　これ主に敵(てき)し　めぐみにそむき
なやめまつれど　みまねきたえず

三　主は手(て)とこきの　いたでをなめし
信(しん)なきこれをも　かくまであいす

117　第百十七　NAOMI. 8686. (C.M.) D.

一　うまれしときより　こゝろくらく
つみもあやまちも　いやつもれり

二　あけくれ日(ひ)ごとに　やむときなく
くちにもわざにも　つみ殺をかす

三　この身(み)につもれる　つみのちりを
いづれのときにか　むちひつくさん

四　耶穌の聖名(みな)により　ちゝのかみよ
われをおそれて　すくひたまへ

五　きよきみたまを　われにそゝぎ
けがれしこゝろを　きよめたまへ

118　第百十八　WESLEY. 8686. (C.M.) E♭.

一　かみのこひつじは　われらのため
ころされたまひて　血(ち)をながせり

二　これいきみがため　なふをのせし
あしきとつみもて　さかひたり

三　こきらがをかせし　そのつみをむ
かみてひつじな　みなおむせり

119 第百十九　COOLING. 8686. (C.M.) D.

一　主ならでたきふの　たすけをてむん
みもとむなきなむ　ゆくかたなし

二　いやしきこきらを　すくむんためふ
きみてそてよなく　くるしみたき

三　きみがみめぐみを　あおむひえば
こゝろれのぞみむ　みちたるべし

四　つのれしての目む　主をぞあふぐ
みうやうくきなむ　こきいうにせん

五　ゆるしのおとづれ　きこゆるとき
うゑしこぐたまも　よろこびみたん

120 第百二十 LANGTON. 6686. (S.M.) Eb.

一　こきらあぐく　こゝにまよひ
のへりゆうぬまむ　やすきわらじ

二　天のみうどむ　とくひらけぬ
いざたちいでゝぞ　ちゝにのへらん

三　ちゝのくわむ　ゆたうあきむ
いまむまづしくも　のちにれとまん

四　耶穌わよりて　ゆるさるきむ
ふたゝびつきある　みちわゆうじ

121 第百二十一 REJOICING. 75757575. F.

一　くらきわねむる　つきびとも
おまつひかりわ　てらさきて
いぶせきゆめも　いまむさめ
うきしきみとぞ　ありにける

二 おまつみそのふ　ふきおてる
きよきみたまの　うぜおこそ
こゝろのくもり　ふきされて
きよけき身とれ　ありおけき

三 かみのまさみち　志らずして
やそおまよひし　つゝびとも
くいてうへきる　その日こそ
まことのひうり　おふぎけき

122

第百二十二　AURELIA. 76767676. Eb.

一 つみれそびゆる　やまのごとく
おくれおふるゝ　うむにひとし
ヨグゆくみちお　たちふさがり
うみのみくにゝ　とほざうらしむ

二 まとひのみちお　さまよふヨれも
おいのみてゑに　よびさまさき
たゞしきみちお　おゆそをうへ
耶穌のみうほを　みるうきしさ

三　主いゑすつミを　負たまへむ
身もうろらうな　よのむせむを
いさみてむしれ　ちゝのかミむ
いのちのうむり　ろなへてまたん

123　第百二十三　RAMOTH.　777777. D.

一　あゝ歎しきうな　めぐひありせむ
おのをゝしらず　かみをもしらず
慾のなまゝな　たゞむさぼりび
たゞよふまゝに　日をくらしたり

二　ゑきのこゝろむ　世なくだりにし
かミなる耶穌の　血しほをすてゝ
あくたとみなし　おきて淡をうし
かミをおうるゝ　こともなうりき

三　このよのためな　身をはだされて
ゑごのまでゝろの　こゑをもおさへ
いとおろろしく　けむしきみちを
ゑちひのゝちな　わゆきたれり

四 いまも全能なる　神ちからづきて
わがのこころに　めぐみをあたへ
すぎこしみちを　かへりみおそれ
きよきのぞみを　おこさせたまふ

124　第百二十四　ELLESDIE.　87878787. D.

一 ちからよわがちからよ　いまとりたまへ
聖子のみ名により　すくひいだして
有するものをも　爲するわざをも
おぼするまにまに　これになしてよ

二 主のみもとをさり　いばらのうちに
ゆきなやみぬれば　いまもつかれて
たちかへりいのる　主よあはれみて
みめぐみのもとに　かへらせたまへ

三 果をむすばざりし　そのとしつきを
おもひいだしてぞ　なみだにむせぶ
ちからよつみをくい　みあしのもとに
たふれふすわれを　いだきかゝへよ

四
世(よ)のすくひぬしに　じふじのうへに
つみをおひたれむ　そのいけにへに
よりたのみまつる　ちゝよすべての
つみとがをゆるし　いまとりたまへ

125
第百二十五　PASS ME NOT. 8585. G.

一 耶穌きみ耶穌きみ　みすくひに
ひとをももらさで　いきたまへ
主よ主よ　きゝたまへ
くだけしこゝろの　ねぎごとを

二 みまへにうちふし　とがのくゆる
こゝろのなげきを　あはれめよ

三 きみのいさをにぞ　たゞたよらん
かよわきこの身(み)を　かへりみよ

四 のぞみのもとなる　主のほかに
あめにもつちにも　すくひなし

126　第百二十六　HAMBURG. 8888. (L.M.) F.

一　われをむたのまじ　十字架にのぼりし
耶蘇よびたまへむ　我キリストにゆく

二　われれためらむで　耶蘇ふてぞすがれ
罪をあらむんため　我キリストにゆく

三　わきれまよひつゝ　ふそれうたがひて
こゝろみだきぬ　我キリストにゆく

四　わきられ目くらみ　わしもあへたれど
主いやしたまへむ　我キリストにゆく

五　耶蘇われをむかへ　罪をきよめたまふ
平安をえんためふ　我キリストにゆく

六　耶蘇のあいふより　へだてのまがきれ
やぶれたれむいま　我キリストにゆく

127 第百二十七　ARCADIA. 86866. G.

一
われはじふじかの　つはものにて
主につかへまつる　身にしあれば
世をおそれんや

二
われのともはこゑ　血にまみれて
をめきさけべるに　ひとりやゆく
てんにのぼらんや

三
主よわれの勇氣を　ましたまひね
みことばにたより　このなやみを
しのびこらへん

四
われこのさかえの　たゝかひにて
よしや死ぬるとも　いのちをえん日は
ちかきにあり

五　主のつはものらが　勝利(しやうり)のころも
衣(き)かざるそのとき　わきもともは
ほまれをうけん

128　第百二十八　HEREFORD. 8.8.8.8. D.

一　われの戦(たゝ)かふべき　あたをみをば
そのひとはつよく　しろれたかし
たかきそのしろも　つよきひとも
われのおそるべき　あたはあらず

二　わきのおそるべき　あたをみよや
うきれせめもこず　かてみもせで
うたがひおそるゝ　そのこゝろは
ふかくひそみゐて　われをうかがふ

三　こゝろはかくるゝ　わがあたをも
みたまのつるぎは　さしとほせり
みたまのつるぎに　さしとほされ
おそるゝこゝろの　あたれ死(しね)り

四
われかみとゝもに　そゝみゆけば
おそるゝこともなく　カナンにのぼらん
われをのぼるべき　カナンのくには
このよにはあらで　かのよにあり

129　第百二十九　RUTHERFORD. 7676 7676. F.

一
ちゝなるかみと　ともにあゆみ
世（よ）にやださをず　おだやかにぞ
われをぞなまし　あめのごとき
たかきこゝろを　主たまへかし

二
むかしはじめて　主をみしとき
むねにあふれし　そのさきはひ
いまはいづこぞ　われをながらも
こゝろのよわき　やどをぞなる

三
なぐさめえつる　わが平和（へいわ）を
おもひづるさへ　たのしかるを
うしなへるわが　こゝろのうさ
主よやなたかへせ　もとのさまに

四
きよきみたまよ　みつかひたち
われをなそてぞ　わがさきの日
主をかなしませ　おひやりたる
つみをばいまは　くいぞなげく

130

第百三十　LIFE'S HARVEST. 7676 7676. Bb.

一
わがざふじかを　この身(み)はおひ
みたまのつるぎ　ふりかざして
まごころつくし　いさぎよくも
あたをふせぎて　たゝかふべし

二
よしやわが身(み)は　死(し)ぬるとても
いざみいくさは　そゝこゆかなん
かちどきあぐる　ときはちかし
まのあたりはぞ　みえわたきる

三
あまつみくにゝ　かへりぬべき
ときはきたれり　わがみかみの
みいくさびとは　かのみそらに
勝利(しようり)のころもを　かゞやかさらん

四
かちどきあげて　たかくうたふ
こゑいさましく　きてねぬをば
いかでかあたに　くだるべきや
かちにかちてぞ　のぼりゆかなん

131　第百三十一　MILLAR. 57577. E♭.

一
しゆのしろ　しゆのちからと
たのむのみ　ともにしませば
あたれものうれ

二
死(し)のかげに　ゆくもおそれじ
みめぐみの　ひうりれつねに
しゆをてらせば

三
うきなやみ　かさなるみねを
こえゆけど　み手(て)にすがりて
なぐさめをうく

四　世(よ)ののぞみ　よしたゆるとも
わがたまの　のぞむみやこに
あめにのぶやく

五　かみの手(て)に　わたをまりぞけ
みまへにて　たのしくあげなん
かちどきのこゑ

132　第百三十二　WEBB. 76767676. A.

一　たてよつはもの　きみがために
十字架のはたに　むきつどへる
あたのいくさを　うちたひらげ
かちほこりてぞ　いよゝすゝまん

二　たてよきうずや　主のみこゑを
いざたゝかひの　かどでいそがん
きみが隊につく　この身(み)なきまで
くもなすあたも　なにかおそれん

三 たてよたてたて　主のちからを
たのみてたてよ　みことのりを
よろひとおして　かみにいのり
おのがもちばに　いさみすゝめ

四 たてよいくさを　やがてをはり
かちどきあげて　かへるときに
いのちのかむり　いたゞきてぞ
さかえのきみと　ともにをさめん

133　第百三十三　ZADOC.　77777.　A.

一 サタナのくにを　うち平（たひ）らぐる
聖子（みこ）のいくさの　血（ち）にそむ旗（はた）に
たたかひすゝむ　ますらをれたれ

二 むちをいとはず　艱難（こんなん）をしのび
イエスの十字架を　負（おひ）たる人（ひと）ぞ
あめのみふさに　その名のぶやく

三　主のみいくさの　さきがけせしは
耶穌にならひて　敵(あた)をもゆるし
いのり求(もと)めし　證據人(あかしびと)なり

四　あとにつゞきし　みいくさびとら
あまつさかえを　よろこび見(み)つゝ
こゝろいさみて　身(み)をも惜(をし)まず

五　わが主たすけよ　かちいくさせし
徒(とも)にしたがひ　われらもともに
あめのみかどに　かちどきあげなん

134　第百三十四　NEWARK. 57577. B♭.

一　うきことも　なやみもたえず
せまれども　すくひのしろに
よりてぞ拒(ふせ)がん

二 おほかみの　めぐみのたてに
よる子らを　あたてふものゝ
おそれやはある

三 世れのぞみ　たえゆくときも
あめにある　さかえのかむり
のぞむたのしさ

135

第百三十五　MAITLAND. 7575. Ab.

一 キリストのこに　あるべきか
いま世にたれも　おふじかあり

二 むかしのともゝ　主とともに
十字架おひてぞ　したがへる

三 十字架をおひて　てんにゆかむ
さかえのかむり　たまふべし

四　つきぬたのしみ　とぐために
主れそなへつゝ　まちたまふ

五　めぐみのふかき　主のみ名（な）を
とこしへまでも　うたはまし

136　第百三十六　PLEYEL'S HYMN. 7777. G.

一　すくはれし子（こ）ら　よのうきたびの
なかにも耶穌の　はまきをうたへ

二　遠（とほ）つおやたちの　すぎしたびぢを
われもふみつゝ　みくにへぞゆかん

三　なむしなのむゝ　とはつおやたちの
かゞやくかほを　みるてとうべし

四　つみにけがれて　すてられし身（み）を
なほとりなして　ちゝにぞかへす

五 ゆるしのみうを　耶穌きみともに
わをといまして　あめにみちびく

六 みちびきたまふ(ヲ)　めぐみうれしみ
すべてをすてゝ　したがひゆかなん

137 第百三十七 EASTER HYMN 75757575. Bb.

一 わがたましひよ　おそるゝな
つよき世(よ)のあた　せめ来(く)とも
わがきみ耶穌の　まもります
大城(おほき)のもとぞ　やすらけき

二 陰府(よみ)とつみとを　わがまへに
かたきとなりて　せまるとも
やぶきて作(たな)きん　わがきみの
すくひのしろの　のたけきを

三　よをいつくしむ　わがきみは
十字架のうへに　みいのちを
すてゝわれらの　あたをふせ
かちてやすきを　たまひけり

四　主は世にかてり　みあとべに
したがひすゝめ　しりぞくな
さかえのかむり　わがために
ちゝのみもとに　そなへあり

138　第百三十八　UNIVERSITY. 7777. F.

一　あたぞかこめる　耶穌のつはもの
しむしたゆまで　めさましいのれ

二　あたのをさども　ひまをうかゞひ
みかたをつのる　めさましいのれ

三　あたはひそみぬ　かみのよろひを
あけくれぬがで　めさましいのれ

四　かちしむかしの　つはものたちは
よびてはげます　めさましいのれ

五　あたのおそるゝ　きみのことはを
こゝろにとめて　めさましいのれ

六　はげみたゝかひ　つねにめさまし
かみのたすけを　ひたすらいのれ

139　第百三十九　BURNS. 8686886. Eb.

一　目さめよわが靈　こゝろはげみ
ちからのかぎりに　いそぎすゝめ

二　さかえのかむりわきのために
天にゆくはせむに　そなはりたり

二 ものみのひとられ　くものごとく
むらがりかてみて　こををゞみる
目をはかにふきず　てんのみのぞめ
いのちのぬしなる　耶穌よびたまふ

三 たへなるめぐみの　すくひぬしに
こをれみちびかれ　むせむにいる
かちの日きたらば　そのはまきむ
かみのみちからと　うたひまつらん

140 第百四　WORK. 76757675. F.

一 とくいそしめよ　夜はきたるぞ
あしたのうちに　いそしめよ
つゆのしらたま　かゞやくまに
むねのなかにも　いそしめよ

二 とくいそしめよ　夜はきたるぞ
あさ日てるまに　いそしめよ
なにもなすこと　かなふまじき
よるのこぬまに　いそしめよ

三　とくいそしめよ　夜(よ)はきたるぞ
まひるのうちに　いそしめよ
とびゆくときの　あとおひゆき
よるのこぬまに　いそしめよ

141　第百四十一　ROLLAND. 8888. (L.M.) G.

一　わざのかずわざの主と　さまざまにたゝへ
ほめつゝわざきらの　よそひをみたしめ

二　あしたにゆふべに　いやしきこの身(み)を
みさゝえのために　いそしませたまへ

三　いまの世(よ)のちの世(よ)　いづこにありとも
たゝへのうたもて　たのしき業(わざ)とせん

四　うたひにうたへど　たへなるみちから
くすしきみわざは　えつくすべきかな

五　かみのおほみわざ　おもひはこゆれば
こゝろをつくして　只(たゞ)うたひたゝへん

142 第百四十二 MIRIAM. 7676767 6. Bb.

一
いざよれたちて　むらがりたる
さまたげのなか　おしよけゆき
主のあしもとに　ひざまづきて
そのみこゝろもの　すそにぞふれん

二
そのみこころもの　すそにだにも
ふれなべいかに　けがれむつる
つみをもいやし　たまふべしと
こゝろさだめて　よれらでかじ

三
われわが主の　あいのほかに
のぞみをもたじ　わがためにと
いのちをすてし　きみのために
われもいのちを　をしむべしや

四
わが主よわきれ　主のみまへに
さゝぐべきもの　なにもあらず
たゞわがよわき　こゝろをのみ
贄(にへ)なぞさゝげん　うけたまひね

143 第百四十三　OLIVET. 664664. D.

一
のろひの木(き)に
こひつじ
まごゝろより
のぞめり
そゝぎませし
わがすくひよ
きみをあふぎ

二
そのゆたけき
ひえたる
ちからをろへ
もやしね
めぐみをもて
わがこゝろに
きよけき火(ひ)を

三
わがためにと
ごとくに
いつくしみて
をしまじ
きみが死(し)にし
わざもきみを
身(み)もたまをも

四
死(し)のあだなみ
わが身(み)を
すくひぬしよ
たすけね
たかくよせて
たゞよふ(ヂ)とも
きたりわれを

五　われめぐみの　つはさにのり
このよを　あたにみてや
たかくのぼり　ちゝのもとに
ゆかまし

144　第百四十四　KENTUCKY. 6686. (S.M.) G.

一　わすれかたく　まもるべきの
つとめあることを　こゝろにとむ

二　かみをあがめ　とはに死なは
たましひをすくひ　さちを賜へ

三　うるはしかる　てんにのぼる
かなひたるものと　これをせよな

四　世のためにも　いそしみつゝ
みむねをなさこそ　わが任なれ

五　われみむねを　なさんがために
すべてのちからを　つくさまほし

六　主よみまへに　すむわが身（み）に
あいと義（ぎ）とをもて　よろひたまへ

七　さめていのり　たゞ主のみ
よりたのむことを　えしめたまへ

145　第百四十五　INTERCESSION. 75757575. G.

一　つみゆるされし　よのひとは
こゝろやすけく　さちおほし
うきよのなみに　たち來（く）とも
うごかぬいはに　それぞよる

二　主はうごきなき　いはをや
とこしへまでも　めぐみもて
かよわきわれを　まもりつゝ
ほろびのふちを　のがれしむ

三 ほろびのふちを　のがれつゝ
いはなる耶穌に　よるわれは
あまつみくにの　御戸(みと)ひらけ
かみのまねきの　こゑをまつ

四 まねきのこゑを　まつわれは
こがねなるがね　よのたから
うたふべきかは　のぞむべき
まことのたから　わめにあり

146 第百四十六 ST. GERTRUDE. 75757575. D.

一 エホバよきみに　よりたのむ
そのたましひは　いとときよき
聖山(みやま)のごとく　そびえたつ
いはほのごとく　うごかじな

二 かみのきよけき　ともがらを
いだけるわいの　みてこそは
サレムの地(ち)をも　まもりにし
やまとかきとに　まさるなき

三 主よまごゝろに まつろへる
わがたましひを ゆるやかに
あつかひたまへ キリストの
ゆきしみそのに ゆかしめよ

四 あまつみそのゝ かゞやける
たまのみかどに みちびきて
さかえのうちに かぎりなく
主ともろともに すましめよ

147 第百四十七 AURELIA. 76767676. Eb.

一 主エスの肩(かた)に つみのおもに
おろしてわれ やすらむまし
めぐみのちしほ わがけがれを
のこるくまなく さりてきよめん

二 ともしかなども 主はゆたかに
わがたましひを やしなひたまふ
うきもなやみも 主にまかせて
こゝろのどかに よをすごさなん

三
つかれしたまも　つよききみの
み手にすがりて　ちからをぞえん
あやふきときも　きみとあらむ
われのこゝろは　いとやすけし

四
みいつくしみに　とめるきみの
きよきみたまを　われはうけて
あめなるちゝの　こゝろにかなふ
わざをなしつゝ　よをむすでさん

第百四十八　BENEVENTO. 7777777. E♭.

一
きみなる耶蘇よ　けがれしわれを
あらひきよめて　めぐみをたまへ
わが日わがとき　わがものみなを
きみのみために　もちゐたまひね

二
わが手につねに　しづかにすがり
きみのちからに　よりていそしまん
われのあゆみを　いとすこやかに
きみのみあとに　したがはしめよ

三
わきちの舌(した)を　すくひのぬしの
めぐみをうたふ　うつはとなして
わがくちびるを　よきおとづれを
あふるゝばかり　みたしめたまへ

四
こがねしろかね　みなとりたまへ
わきものもたで　このよにうまる
ちゑもちからも　かみのあたふる
たまものなきべ　はてるべしやむ

五
わきのおもひを　みたまのかみの
みむねのまゝに　ならしめたまへ
をさなき身(み)をも　めぐみによりて
きよきみたまの　みやをぞそなへん

149

第百四十九　WHITER THAN SNOW. 11111111. G.

一
罪咎よこゝろにやどりて　われをみやとなしたまへ
けがれにそみしこの身を　ゆきよりもしろくせよな
わがつみをあらひて　ゆきよりもしろくせよな

二　われらのために主エスは　ちゑをながしたまへば
いまよりきみにまかせて　身もたまもさゝげまつらん

三　われらはいまひたすらに　みまへにふしてねがふなり
つみにけがれしこゝろを　いまあらたになしたまへ

四　ふかきめぐみのちしほに　きよめらるゝうれしさ
いのりにこたふわがかみ　聖名をあがめさせたまへ

150　第百五十　ELLESDIE.　8787 8787.　G.

一　わがすくひぬしよ　われはすべてを
みな世になげすてて　きみにしたがひ
つかふるためにと　じふじかをおへる
身も主にたよりて　ちからをましぬ

二　この世のわが身の　たのしむとみし
もとむるほまれを　みなほろぼすも
こよなきたからの　耶穌きみませば
ゆたけきこゝろに　たのしみあふる

三
かみのみちからと
笑(ゑ)みのほにあふるゝ
世(よ)はみなこぞりて
いかにせむるとも
ちゑある耶穌の
あいをしみれは
たゞわれのみを
われはいとはじ

四
耶穌よみそなはせ
われをなやますれ
きみのふところに
ゑづけきねむりを
世(よ)のひとびとの
わざはひなちで
われをおひやり
あたふるのみぞ

151

第百五十一　REPOSE. 77777. D.

一
耶穌キリストよ
われはなすまじ
いうにさちある
きみゆるさずば
この身にとりて
わざはありとも

二
耶穌キリストよ
われはまなはじ
いかにてちたき
きみをしへずば
かしてきひとの
をしへありとも

三
耶穌キリストよ　きみあゆまずば
われはあゆまじ　うきよのともの
いかはいざなふ　みちなありとも

四
耶穌キリストよ　きみいまさずば
われなゆくまじ　このよをさりて
いかにたのしき　くになあらとも

152　第百五十二　MARTYN. 77777777. F.

一
わがたましひを　あいする耶穌よ
なみさかまき　かぜふきあれて
あやふきときも　この身をまもり
みもとはのどき　ゆうしめたまへ

二
わきはわれはうの　かくれがあらず
たぶちうらなき　このたましひを
ゆだねまつるべ　みすてたまはで
なほもあはれみ　なぐさめたまへ

三
たのみまつるは　たゞきみのみぞ
たすけはすべて　み手（て）よりきたる
よるべなき身（み）を　そのみつばさの
かげにかくして　まもりたまひね

四
耶穌のめぐみは　あふるゝばかり
これにたらひて　もとめにあまる
たふれたるをば　おこしたゝしめ
おとろへたるを　はげましたまへ

第百五十三　LEBANON. 6866686. F.

一
あはれ迷（さま）よふ　よきひつじ
おのが檻（をり）をいで　けはしきやま
さびしき野（の）を　へありきつゝ
身（み）のあやふ（ウ）きをも　しらでぞある

二
こがかひぬし　主エスきみは
やまをものべをも　もれずたづね
あやふ（ウ）きこを　うゑしこをを
いだきはぐくみて　すくひたまふ

三
さまよふ我(われ)を　あはれみつゝ
めぐみのみてもて　みちびきてぞ
をりにかへし　あしたゆふべに
みづからなぐさめ　やしなひたまふ

四
けふより我(われ)は　まよふことなく
みこゑにしたがひ　主をはなれじ
主はかひぬし　わがためには
いのちもをしまで　すてたまへり

154　第百五十四　ANAGOLA. 8686886. B♭.

一
いまわがいけるは　これキリスト
しぬるはわが益(えき)　わがさちなり
われは主のために　じふじかをとり
つねによろこびて　すゝみゆかなん

二
わが世(よ)はたびにて　てんにゆくべき
みちいとはるけく　なやみあれど
よなよなあれのゝ　幕(まく)にいこひ
日ごとにあゆみて　たかくのぼる

三 われはキリストと ともにゆけば
そのくるしみにも あづかるべし
キリストとともに うしなふものは
これとともにうる よろこびあり

四 われまことをもて うきをしのび
みもとにいたらば すくひぬしは
わがあいする子(こ)よ とこしへなる
ゆづりをうけよと 詔(のり)たまふらん

155 第百五十五 GAUNTLETT. 75757575. B♭.

一 うまれてしより つながれし
つみのともづな たちきりて
このよのきしを はなれゆく
すくひのふねぞ いさぎよき

二 めぐみのかぜに 眞帆(まほ)あげて
はしりしゆけば ときのまに
あまつみくにの かのきしも
やゝちかづける こゝちせり

三　ふねをおほへる　おほかぜを
たゞひと言(こと)に　したがはせ
しづめたまひし　耶穌きみは
いまもともにぞ　いましける

四　耶穌はわれらと　ともなれば
わだなみたちて　さわぐとも
こゝろしづかに　うたひつゝ
ふるさとさして　かへるなり

156　第百五十六　MERCY. 7777. D.

一　汝(な)がおもき荷(に)を　耶穌におはせよ
そのみてとはに　たゞよりたのめ

二　つねにかはらぬ　まことをしりて
めぐみをほむる　ときてそわらめ

三　主はそのみ手(て)に　なんぢをさゝへて
やすけくかたく　たゝしめたまはん

四　耶穌のひとたび　あいせしものを
　　そのめぐみより　うごきさなれじ

五　天地(てんち)も逝(すぎ)さちん　たゞあたひなき
　　みめぐみのみを　おとろへゆかじ

六　主をみてころを　なしとぐべしと
　　かたくみづから　ちかひたまへり

七　耶穌よわきちの　とをふうでかね
　　いを得となりて　まもりたまひね

157

第百五十七　PASCAL. 888S. (L.M.) Eb.

一　わがすくひぬしよ　われいさをなく
　　たゞそのめぐみを　たのみてきたる

二　わがすくひぬしよ　われつみをきど
　　たゞその血(ち)しほを　たのみてきたる

三　わがすくひぬしよ　たゞそのちからを
　　われはよわけれど　たのみてぞきたる

四　わがすくひぬしよ　たゞそのまことを
　　われはうたがへど　たのみてぞきたる

五　わがすくひぬしよ　たゞそのをしへを
　　われはまよへども　たのみてぞきたる

六　わがすくひぬしよ　たゞそのやすきを
　　われはなやめども　たのみてぞきたる

七　わがすくひぬしよ　たゞそのたすけを
　　われはやみふせど　たのみてぞきたる

八　わがすくひぬしよ　すべてのけがれを
　　わがすべてのつみ　きよめさりたまへ

158

第百五十八

SILOAM. 8686. (C.M.) D.

一　耶穌よわれきみを　おもふときは
わがむねのうちに　よろこびあり

二　みかはのひかりを　見てみまへに
いてふときは更に　たのしさなり

三　世のすくひぬしよ　み名にまさる
たのしみのこゑを　たれかいださん

四　つみをぺくいたる　わがのぞみよ
うるはしき御名を　よろこびよべ

五　たふるゝものには　みいつくしみ
もとむるものには　めぐみをたまふ

六　主エスをみとむる　ものゝむねに
しめさるゝあいは　なにゝたとへん

七　はかりなきあいの　いかなるかは
　　あいするもののみ　しるをうべし

八　いまのよのちのよ　とこしへなる
　　わがらのさかえは　きみにぞある

159　第百五十九　BEATITUDO. 8686. (C.M.) G.

一　主よわれはきみを　あいするなり
　　わがむねのうちを　みそなはせよ

二　主のあたとなりて　のろされたる
　　ことなるかみをぞ　みなおひやき

三　主よりもまさりて　ほかのものを
　　あいせしむること　なからしめよ

四　主によらでいづる　よろこびにれ
　　こゝろもおもひも　死(しに)てあれよ

五　かたぶくるみゝに　きくみ名(な)こそ
あらずしたはしく　うるはしけれ

六　わがこゝろは主の　みこゑをまち
よろこびときめく　さまならずや

七　いとあいする主よ　主はわが主を
ふうくわいするを　しろしめせり

八　されど我(われ)れねがふ　たかくのぼり
さらにおほく主を　あいせんことを

160　第百六十　WHAT A FRIEND. 878787. F.

一　たへにたふとしや　わがとも耶穌よ
いのきをべつみをも　とりさりたまふ
やはらぎうしなひ　いためるときも
あはれみのみこゑ　われをいたはる

二　いのるまごゝろの　せちにあらねど
なやみまどへども　なほ主にすがる
われらのよわきを　主はしりまして
そのかなしみをも　ともにたへたまふ

三　おもひわづらふ　おへるおもにを
いつくしみふかき　みまへにおろさん
よのともはわれを　いやしむるとも
主はふところにぞ　なぐさめたまはん

161　第百六十一　HOLLINGSIDE.　77777777. D.

一　みちしるべする　きよきみたまよ
うきよのたびに　さまよふわれを
あはれみたまへ　すくひにまねく
めぐみのみてに　きかしめたまへ

二　わがとも耶穌よ　われをまもりて
うたがひまどふ　やみになおきそ
なやみのあらし　ふきくるときも
たすけのみてに　きかしめたまへ

三　世にあるつとめ　とくなしをへて
ちゝのみくにゝ　のぼりていてむ
たゞ主のさかえ　のぞむこの身(み)に
こよとのみこゑ　きかしめたまへ

162　第百六十二　EVEN ME. 87876. G.

一　かみよあはれいま　めぐみのあめの
あまねくたれる　おとをきくなり
わがうへにも　くだしたまへ

二　かわけるつちさへ　みなうるほへり
たゞひとしづくの　めぐみのあめを
わがうへにも　そゝぎたまへ

三　めぐみゆたかなる　われらのちゝよ
われをみすぐして　なゆきたまひそ
わがうへにも　めぐみ賜(たま)へ

四　いつくしみふかき　すくひのぬしよ
われのたましひに　きみをしたはせ
いつくしみに　をらせたまへ

五　ちからのたへなる　みたまのかぎよ
くらめるこころの　まなこをひらき
そのひかりを　あふがしめよ

一六三

第百六十三　LUX BENIGNA. 10 4 10 4 10 10. Ab.

一　みめぐみあるひかりよ　かこめる
くらきなかにもわれを　みちびけ
夜はくらく家はとほし　我をみちびきたまへ

二　わがあしをまもりてよ　いかにか
遠方をまでみんことを　のぞまんや
わが身のためにはたゞ　ひとあゆみにてたれり

三　われはさためなき世に　さすらひ
おそれなきにあらねど　こころは
たかぶりにしたがひぬ　すぎこし日をなおもひそ

四 みちからへかくながく　しのびて
われを祝(しく)したまへば　やまにも
野(の)にも夜(よ)のすぐるまで　尚(なほ)もみちびきたまはん

五 あしたの來(きた)らんときに　わがもと
しばしみてまたしばし　わかれし
かみのつかひのかげも　ゑみつゝ我(われ)をむかへん

164 第百六十四　TRUSTING. 7777. F.

一 けがるゝこの世(よ)　くちゆくわが身(み)
あはをかたのまん　じふじかにすがる
耶穌よじふじかの　たゞたよりゆく
われをあはれみ　すくひをたまへ

二 あがくもとめて　えざりしすくひ
じふじかによりて　うるぞうれしき

三 ときもたからも　この身(み)もたまも
みな主にさゝげん　われはや死(し)ねり

四 主ふありいくる　よろこびあふれ
みさかえうたふ　うたとこそなき

165 第百六十五 NEAR THE CROSS. 7676. F.

一 わがきみ耶穌よ　あいのこがるゝ
十字架のもとふ　そませたまへ
われのほこり　じふじかにあり
じふじかのほかに　たからはなし

二 十字架ふすがる　よわきわれも
いまぞみちるゝ　ふかきめぐみ

三 十字架のうへふ　よろこびあり
たえずみかげふ　よらせたまへ

四 こがねのをかを　みるときまで
十字架のもとを　われもさらじ

第百六十六　BARTIMEUS. 8787. E♭.

一　うつりゆく世(よ)にも　主の十字架にこそ
　　ひとりそびゆる　われはほこらめ

二　みふみのひかりも　十字架のうへにぞ
　　つみをあがなふ　みなあつまれる

三　うきことうちよせ　おそれとなやみに
　　のぞみはうせて　かこまるゝとも

四　[illegible]ふじかれ平和(へいわ)と　われをばはなれで
　　よろこびをもて　つねにかゞやく

五　さいはひの日いで　ひかりとあいにて
　　わがゆくみちを　かゞやかすとき

六　十字架のうへより　めぐみはまひるの
　　ながれていづる　ひかりをうちそふ

七　わざはひさいはひ　よしあしともに
　　十字架によりてぞ　きよくせらるゝ

八　はかりしられざる　ときはかきはの
　　平和(へいわ)とよろこび　かしこにみちぬ

167　第百六十七　ROSEFIELD. 7.7.7.7.7.7. Bb.

一　ちゑとちからの　もとなるかみよ
　　いとおろかしく　かよわきわれに
　　かみのちからと　ちゑをあたへよ

二　われ世(よ)にあれど　かみの子(こ)なれば
　　この世(よ)のことに　おろかなりとも
　　ちゝのことには　さとからしめよ

三　かみのめぐみは　やまよりたかし
　　うみにもまさる　そのふかさをば
　　はかりしるべき　すべてそなけれ

四　おやめるときも　よろこぶときも
ひとしくちゝの　めぐみをおもひ
みいつくしみを　われはわすれじ

五　このよのひとを　われをすつるも
うからやからは　われをうとむも
まことのちゝの　あいたはおきじ

168　第百六十八　HOLLAND. 8888. (L.M.) (?)

一　あめにのぼりにし　耶穌きみのみちを
ふみてこそすゝめ　みかはをみるまで

二　キリストのみちを　死をいでいのちへ
うつるみちおきむ　われいさみてゆく

三　罪をのがれんとて　もだふるまにまに
いよゝたましひの　溺れんとするとき

四　耶穌きみのみては　いともうるはしく
　　わきてそみちなを　來よとぞよびたまふ

五　つみあるこの身も　めしにしたがひて
　　みもとにすゝめむ　めぐみをぞかうふる

六　もとめえしきみを　われひとにしめさん
　　こはかみのもとに　のぼるみちなりと

169　第百六十九　BETHANY. 6464664. F.

一　わがみかみに　ちかづかん
　　のぼるみちは　じふじかに
　　ありともなど　かなしむべき
　　わがみかみに　ちかづかん

二　さすらふ間に　日はくれ
　　いしのうへに　ねむるも
　　ゆめのうちに　てんをあふぎて
　　わがみかみに　ちかづかん

三　主のつかひは　くもゐに
かけしはしの　うへより
まねきぬれば　いざのぼりて
わがみかみに　ちかづかん

四　めさめてのち　ベテルを
たてゝかみの　めぐみを
いよゝせちに　たゝへつゝぞ
わがみかみに　ちかづかん

170　第百七十　ARLINGTON. 8686. (C.M.) F.

一　かくもかかりつみに　けがれし身を
すくへるめぐみは　いともたふとし

二　つみのあやふきを　わきにしめし
まことのやすきを　たまふわが主

三　うきよのたびぢに　ともなひたまふ
めぐみにゆだねて　いよゝすゝまん

四　はかなきての身(み)の　いきたゆる日(ひ)
うへなる御殿(みとの)に　いのちをうけん

五　あめつちほろびて　さりゆくとも
かみはとこしへに　わがともならん

171　第百七十一　GREENVILLE. 878787. F.

一　あゝ皇(きみ)のきみなる　エホバのかみよ
あれのにまよへる　わすれたびゞと
マナのごとく天(てん)の　かてをふらせよ

二　つきせぬいづみの　ながれをしたひ
たちのぼるくもの　はしらをたのみ
みちびくひかりと　ともにゆかまし

三　エホバよみたみの　ヨルダンのかはを
わたりておそれず　カナンのみくにへ
すゝみてゆくべき　みち我をしへよ

172 第百七十二

JEWETT. 6666666. D.

一
かみよわれを　みちびきゆけ
われたゞ主の　みちをあゆまん
いかにくらく　けはしくとも
みむねならば　われいとはじ

二
われみづから　こゝろまゝに
主わがつとめの　みちをとらじ
主わがために　えらみたまへ
主のまにまに　たゞしくゆかん

三
わがもとむる　うへのくには
主のものなり　さればそこへ
のぼるみちの　よるべもまた
主ならずば　まよひなまし

四
主よのむべき　わがさかづき
とりてわれは　さづけたまへ
よろこびをも　かなしみをも
満(みた)しめたまふ　まゝにぞうけん

五
主よみづから　しごのみちびき
しきのちから　智慧ともなり
しごのことごと　みなまもりね
よしきしきも　まよひはせじ

173　第百七十三　HE LEADETH. 8888. (L.M.) C.

一
いつくしみふかき　主の手にひかれて
この世のたびぢを　あゆむぞうれしき
（いつくしみふかき　主のともとなりて
み手にひかれつゝ　あめにのぼりゆかん）

二
さびしきのべにも　にぎはふさとにも
主はともにまして　われをぞみちびく

三
ゆきなやむさかも　おづべきたにまも
主の手にすがりて　やすけくすぎなし

四
世のたびぢはてゝ　死のかはにゆくも
懼れなくわたらん　主のたすけあらば

第百七十四 HOMEWARD. 107 107 10 10 107. A.

一
われまたく主のものと　なりなばつねに
たゞ一様(ひとつ)のいのりせん　よろづのいのり
かみのみこゝろをなし　わがこゝろをみむねの
ごとくなすのほかなし　たすけよわが主

二
ありまさぬところなく　またあいにとむ
全能(ぜんのう)なるきみにかたく　われこそたのめ
かみのみちへわれらが　さとるゝさとりえぬも
みなあはれみにとみて　たゞしくぞある

三
わがもてるものへみな　めぐみによれる
たまものなるをわれに　さとらせたまへ
かみのちゝのたまもの　むくゆるにすべぞなき
あふれいづる感謝(かんしゃ)をば　みもとにかへさん

四
ふかきみこゝろにより　わがもののみなを
とりさりたまふもわれ　なにをかなげき
なみをうかてち訴(うた)へん　いなわれへ聖名(みな)をほめ
エホバへいまもめぐみ　ありとぞうたはん

五　世(よ)ハわが暫(しば)しさすらふ　たびにしあれバ
ものをたもちえぬころ　ことわりならぬ
ふるさとにわがかへる　ときまでハひとつだに
むなしからぬものなし　やすみハあらず

175　第百七十五　WONDROUS LOVE. 8s6s8s6s. D.

一　われやめるときさへ　なぐさめあり
われらにかはりて　血(ち)をながしゝ
耶穌のくるしみを　おもひやれば
われらのいたみを　速(とみ)にされり

二　くるしめるときさへ　めをさまして
かみのしもべなる　ヨブをみれバ
サタナにうたれて　いたくなやみ
なみだのうちにも　かみをあがむ

三　わざはひのときも　よろこびあり
かみれいつくしむ　子(こ)をむちうち
火(ひ)をもて鍛(きた)ふる　ことをしれバ
身(み)をやくはかりの　苦(く)をもしのばん

176　第百七十六　ST. CRISPIN. 8886. E♭.

一　わがたよるともは　あまつ聖子なれば
　　うき世のたびぢも　おそれあらじ

二　みくにはるかに　へだつるたびぢも
　　なほなぐさめあり　主ともなれば

三　世ののぞみはつき　よのともはさるも
　　かはらぬみめぐみ　つねにともなふ

四　わがのぞみも信も　こころみにあへど
　　いつくしみふかき　御手にすがらん

177　第百七十七　PORTUGUESE HYMN. 11 11.11 11. G.

一　主の聖徒よおもへかし　御言のうちには
　　いかによきかたき信仰の　いしずゑおかれたりしや

二　避どころをえんと耶穌に　のがれゆく者にのたまふ
　　みことばにまさる言を　誰かいひうる者あらん

三　我はめぐみの手をのべ　ぜんのうの臂をさしのべ
　　なんぢを強くしつねに　その身をささへて扶けん

四　われふかき河(かは)をわたり　ゆけよと命(めい)ずるときハ
かなしみの水(みづ)かうへの　うへにあふるゝことなし

五　ゆくみちハ火(ひ)にひとしき　試錬(しれん)のあひだにありとも
めぐみ充足(みちたら)ひぬれバ　ほのほも害(そこ)なひあたはじ

六　われハたゞなんぢの滓(かす)を　こと〴〵く焼(やき)つくして
こがねを精(せい)ならしめんと　欲(ほり)するの他(ほか)ハあらず

七　わが僕(しもべ)ハおいのさか　越(こえ)ゆくまでかはりなき
わが愛(あい)をあぢはひつゝ　つねに楽(たの)しみて世(よ)をへん

178　第百七十八　GETHSEMANE. 777777. D.

一　主よ主のなやみ　くるしみしのび
世(よ)にませし日(ひ)を　おもひいでつゝ
われをあはれみ　たすけをたまへ

二　うきへかなしみ　ラザロのはかに
そゝぎしなみだ　おもひいでつゝ
われをあはれみ　たすけをたまへ

三　さびしきそのに　なげきたまひし
つみなきさまを　おもひいでつゝ
われをあはれみ　たすけをたまへ

四　身(み)をさへころし　すくひをなせる
きみがめぐみを　おもひいでつゝ
われをあはれみ　たすけをたまへ

179　第百七十九　RANIOTH.　7777777.　D.

一　わがきみ耶穌よ　そのかなしみを
われのこゝろに　とめしめたまへ
われをもみづから　なげきのふちに
つねにしづみて　うかぶせぞなき

二　み子(こ)なる耶穌の　かずかぎりなき
そのくるしみも　わがをかしたる
すべてのつみの　おもにをおろし
つかれいやして　やすきをあたふ

三　キリストなくば　わがをかしたる
つみののろひを　いかでかのがれん
その聖名(みな)により　よびまつらずば
ちゝなるかみに　いかでかとゞかん

四　たかきにいます　めぐみのちゝの
さときおん耳(みゝ)は　むしにひとしき
わがかなしみの　こゑももらさず
きゝてめぐみの　こたへをぞたまふ

180　第百八十　VIRGINIA. 7777777. F.

一　かみをみること　あたはぬわざも
かなしむときに　われをさゝふる
ちからのみての　ありとしゝらる
耶穌キリストよ　きみはその御手(みて)

二　わがもろもろの　ことばはわれの
くちにいでこず　のぞみはわれの
めにかくるれど　かみはこゑなき
こゑをもきけば　われ手(て)をたれじ

三
かなしみせまり　ものさへいへず
つかれまどろみ　目(め)さめてみれば
あめのみつかひ　かたへにたてり
いよゝ手(て)をあげ　わがかみをよばん

四
よしやひとよに　そらかきくもり
日(ひ)つきてらさず　げにおそろしく
世(よ)はなりゆくも　われはおそれじ
めぐみのかみは　つねにともなり

181 第百八十一　LOWTON. 8787. Eb.

一
からべをたれたる　わがたましひよ
おきてよろこびの　ひかりをあふげ

二
かなしみしぼめる　われをあはれむ
ちゝよりめぐみの　つゆぞしたゝる

三
わがすくひぬしは　つみのおもにを
われよりおろして　手(て)をとりたまふ

四　みこゝろしらざる　よのつみびとら
いよいよそむけむ　いよいよあいす

五　かゝるみめぐみを　わすれてわれは
しはしはそむけど　耶蘇はわすれず

六　わがあとしたひて　かへれわが子よ
わが子(こ)よかへれと　よびかけたまふ

七　かゝるいつくしみ　よにたぐひなし
われとこしなへに　耶蘇きみはをらん

182　第百八十二　COURAGE.　88884.　Eb.

一　なみだのたになる　このよにさまよひ
なげくものはきけ　かみのこゑいま
きこえぬ
（かみのこゑが　いとうれしき
なみだをぬぐはんと　よべり）

二　をしきひとり子(ご)を　うしなへるおやも
いつくしむつまに　わかれし夫(をうと)も
みなきけ

三　やまひにくるしみ　まづしきをうれひ
のぞみをうしなひ　たのしきものも
きくべし

四　かみのみちゆゑに　むづかしめをうけ
耶穌のみ名(な)のため　せめらるゝものも
きけかし

183　第百八十三　SORROW. 6.5.6.5.6.5. Eb.

一　往(ゆき)てなんぢの　かなしみを
みなうづめよ　この世(よ)にも
かなしみあり　いでゆきて
これをふかく　はうむれよ

二　ゆきておのが　室(へや)にいり
よるすがらに　おもひみよ
すくひぬしに　ことつげよ
さらば耶穌の　めぐみをえん

三
ゆきてつげよ　主はなんぢの
なげきをこそ　しりたまふ
ゆけすくひを　たまふべし
おも荷(に)はおり　やすきをえん

四
ゆきていのち　つかれたる
よわきものよ　ひたすらに
耶穌にすがれ　さらば主は
御ちはれこそを　たれたまはん

五
いたくなやみ　つかれはて
仆(たふ)れんとする　たましひは
耶穌にゆきて　なぐさめよ
そのなげきを　得らむちよ

184　第百八十四　ST. AUGUSTINE. 886886. Ab.

一
きみよみめぐみに　われてそたよらめ
たよるわれに　みすくひをたまへ
いさをもなけれど　すてなたまひそ

二 いさをなきわれの　つみのためにとて
十字のうへに　なげさせたまひし
ちしほをたのみて　みもとにゆかん

三 ほろびよりすくひ　なぐさめをあたふる
みたまをもて　かみをちゝとよぶ
子となるめぐみを　えしめたまへ

185 第百八十五　BALERMA. 8686. (C.M.) A♭.

一 きみよわれは信ず(しん)　主のちからを
かしこみて命令(おほせ)に　したがひゆかん

二 かみのまことより　まよひいでゝ
ひとりゆくときは　なぐさめなし

三 主よわれ信(しん)ずれど　おそれのくも
わがめをおほひて　くらくなせり

四 われたゞいのりて　なみだをもて
みちからをもとめ　ひかりをよむに

五　主よ己れ信ずれど　己がこゝろの
　　ひやゝかになりて　よわきをしる

六　主よわれわれねがふ　ちうちをそへ
　　なうするこゝろを　あたへたまへ

七　耶蘇よわれわれ信ず　きみならでれ
　　たきう己がたまを　たすけいださん

186　第百八十六　LANGTON. 6686. (S.M.) Eb.

一　己ゑのともし　耶蘇きみにて
　　己ゑれ主につける　主のものなり

二　あたのし己ざ　いうにつよく
　　いうにつきなくも　ものとれせじ

三　耶蘇よ己れの　ふところにて
　　ひそうにさゝやき　はげましたまふ

四　のそによりて　やすけうらんを
　　もとめなむのその　ちうきをこんと

五　主はうへなる　そのみくにゝ
うるはしきまちを　たてたまへり

六　かしこにゆき　信仰をもて
のぞみしことみな　なるを見べし

七　わがためにと　うへのくにゝ
そなへられたるを　よろこびうたふ

八　わがまなこを　てらせる日は
あいするきみなる　キリストなり

187　第百八十七　THOMPSON. 6686. (S.M.) F.

一　うみにやまに　たづねいるも
わがたまのやすき　いづこにある

二　わがたましひ　のぞみなき
たうちぬはなれも　つひにくちなん

三　うきこの世と　へだつる天に
まことはのぞみを　かゞやきおり

四　わが身つゆと　きえうせなむ
よはのぞみはたえ　つみぞのこらん

五　つみのほろび　とくのがれよ
主によるのぞみぞ　とこしへなる

188　第百八十八　DULCIANA. 7575757 5. C.

一　あまつひじりの　すみあそぶ
きよきかむべに　われもまた
つひにゆかまし　あさゆふに
のぞみまちつゝ　たのしめり

二　たのしきのぞむ　ひじりらの
きよきうたより　ながれくる
みづにけがれを　あらひさり
いさぎよき身と　なりぬべし

三　うきよのつみも　すゝがれて
けがれなき身と　なる己れの
いのちの終らん　ゆふべには
あまつひじりに　ともなはれん

四　まどひなやみし　たましひも
すくひのぬしの　めぐみにて
あまつひじりの　むれにいり
ともにたのしく　あそびすらん

189

第百八十九

DESIRE.　57577.　D.

一　かみなくば　いかにしてかれ
慰さめなん　みなほろびゆく
たのみなき世に

二　あきらけき　めぐみのみちの
あるものを　こゝろのやみに
ふみまよふひと

三　わがこゝろ　みたまのみやと
なりてこそ　つむらにみゆれ。
うみのまことれ

四　かむりなき　まことのみちを
ゑるべにて　さだめなき世(よ)に
まよむずもがな

五　耶穌きみの　そくひのみちを
ふそのぼり　あまつみくにの
さうえこそ見(み)め

190

第百九十　NAOMI. 8686. (C.M.) D.

一　むなしきひと夜(よ)の　ゆめの世(よ)にも
やまれもたうらも　たのむべしや

二　ゑむらくうゞやく　よのさいむひ
たのしとみるまに　うきなうむらん

三 いつくしむとも おやうるとも
こよなきめぐみの 主をわそれじ

四 主の名をこゝろに ながくしるし
のぞみのよろこび みたしたまへ

191 第百九十一 HOLLINGSIDE. 7.7.7.7. D.

一 このよのとみと たからのことは
わきふとふとも われはこたへじ
ひとのたのしむ このよのものは
わがたのしみと するにはたらじ

二 われはこのよに のぞむものなし
わきのみぞそれ たゞキリストぞ
このよはすべて ころものごとく
ふるびてつひに やぶれうすべし

三 このよの栄華は はなのごとくに
うるはしうるも しぼむときあり

いつもりうざる　ひとのたくみも
たゞときのまの　ながれにひとし

四
まれい死といふ　をもりのあたの
うならぞおそひ　きたるをしをべ
こゝにしむしも　こゝろゆるさで
たゞそのときの　そなへをなせり

192　第百九十二　THE SOLID ROCK. 8888. (L.M.) F.

一
わが身のれぞみい　きみのちしはなり
耶穌きみのはかに　たよるかたぞなき
ちよへしいもこそ　まれの立處なれ
われのたちをなれ

二
かぜいとはげしく　浪たつやそよも
のぞみのいのりを　主のみもとにおうん

三
世のたれそたゆる　いまもののきはにも
のぞみいらごかず　みちうひをたのむ

第百九十三　ST. FAITH. 11 11 11 11. G.

一　わがふるさとのすみかは
たかきうへのくになれば
よにはやすむところなし
おもひわづらふことあらじ
かみのつかひはよろこび
あまつみくにのすみかに
きたれとわれをまねきて
みかどにうたひつゝまつ

二　なやみはわれをうながし
よのたびぢをいそがしむ
たのしみなきはうきよなり
われはこゝにながゐせじ

三　ひとのたてしみやこならで
つみとうきひなきさとに
ゆきてぞそこにすみなんと
つねにのぞむたのしさよ

四
わがちゝのくにをつぐは
いまの世(よ)にしあらざれば
こゝにこゝろをとゞめじ
のちのよをぞいそがるゝ

五
いばらあざみもいとはず
はなのしとねものぞまじ
われは耶穌のふところは
いこはんときをまちのぞむ

194 第百九十四　ST. AGNES. 8686. (C.M.) G.

一
おそれもうれへも　みなさりゆかん
きくもいとたのし　きみがみなは

二
つかれしわが身(み)は　やすきいこひ
うゑしたましひに　マナをぞたまふ

三
いのちよまことよ　みちなる主よ
わがたゝへうたを　うけたまひね

四 こゝろもおもひも　よわくあれど
まことのみすがた　あふぐときは

五 御徳(みとく)にかなへる　たゝへをもて
きみのみさかえを　ほめうたふべし

六 來(く)るその日(ひ)までは　主のめぐみを
むかなきくちもて　うたひてあらん

七 この世(よ)をさるとき　みなをほむる
たへなるしらべに　めをさまさせん

195 第百九十五　AYRSHIRE. 88888888. F.

一 よろこびつゝへて　主をたゝへうたはん
そのいつくしみは　あめつちにみてり
ほろびにおちいる　これをもあはれみ
すくひをたまはる　めぐみぞおほいなる

二 ちよろづのあたは　たえずせめ來(く)とも
なほ平安(やすき)をたまふ　みめぐみぞつよき

三
まよへるこゝろは　主にはなるれども
みいつくしみこそ　つねにかはらざれ
死(し)のかげのたにを　たどりゆくときも
おそれを去(さ)りたまふ　あはれみぞふかき
よのたびはてなむ　みまへにすゝみて
いよゝよろこびて　主をたゝへうたはん

196　第百九十六　REVIVE US AGAIN. 5565565. F.

一
かみの聖子(みこ)　世(よ)にくだり
ひとのつみを　身(み)におへり
さればこそ　耶蘇とよべ
われら耶蘇を　ほめたゝへん
さんびせよさかえは　主のものぞ
ふたゝびわれらを　おこせアーメン

二
かゞやける　みたまこそ
やみよをも　明(あか)くして
みすくひを　世(よ)にしめせ
みたまのかみ　くだりませ

三　みめぐみと　いつくしみ
十字のうへに　あらはれて
きよき血は　けがれたる
世をあらひて　きよくせり

四　主のあいに　わがこころ
はげまさきて　たましひは
火のごとく　もえたちね
主よあはれみ　たすけよや

197　第百九十七　EEULALI. 8636. (C.M) Ep.

一　やゝにうつりきし　ゆふ日のかげ
わづかにのこれる　わきのいのち
みつかひよ　つばさをのべ
とこしへのふるさとに　のせてかへれ

二　死をさへいとはで　われをあいせし
主にまみゆる日も　いまぞちかし

三　あめのふるさとに　きよきともと
主の御側(みもと)にまたん　のこるともを

四　かの世(よ)のみそらに　ひかりたえぬ
きみのみさかえを　みるうれしさ

198　第百九十八　COOLING. 8686. (C. M.) D.

一　みじかきこのよの　たびのともよ
しばしはわかれて　むなるゝとも

二　ふたゝびあひみて　ともにかたらん
こゝろをおとさで　いさみすゝめ

三　主の手(て)にすがりて　たゞしづかに
もとゐあるしろを　のぞみてゆけ

四　たまの戸(と)ひらきて　ちゝはともの
かへるをいまかと　まちたまへり

五　あとにおくれゐて　ともをみやる
こゝろむみくにの　きしまでゆかん

199　第百九十九

LINDISFARNE.　7S7S1.　B♭.

一　主いきたまへば　しぬるをおそれじ
地（ち）はれとまらぞ　墓（はか）はちからなし
ハレルヤ

二　主いきたまへば　死（し）はほろびならぞ
つきぬいのちに　いるべき門（かど）なり
ハレルヤ

三　主いきたまへば　よろこびつのへて
そのみさうえを　ひたそらあらむさん
ハレルヤ

四　主いきたまへば　その守護（みまもり）より
世（よ）も死（し）も陰府（よみ）も　われらをうばはじ
ハレルヤ

五　主いきたまへば　あめつち萬物(よろづ)を
をさむるかみと　たもあぞましませ
ハレルヤ

六　主いきたまへば　とくあのやそみと
そのさかえとを　うくるぞうれしき
ハレルヤ

200　第二百　ST. CROSS. 8888. (L.M.) F.

一　みよ耶穌にありて　うまいするものは
ふたゝびめさめて　あげくときぞあき

二　をそりのあたにも　おそひやぶらさぞ
死(し)よあんだの刺(はり)は　いづてぞとうたふ

三　そのめさむるとき　ゆたけくめぐまれ
たゞしきにありて　神のとうほをとん

四 わがすくひぬしの　みちからはらされ
かゞやくさかえに　われあきたるべし

五 あゝいかに幸なる　わがなきがらぞや
くらきのおそれも　ふたゝびきたらざ

六 やすらかにふして　たかきところより
きたれと呼たまふ　夜あけをこそまて

201 **第二百一** ST. SYLVESTER. 8787. F.

一 世にてまたなきぬ　わかれにあへぞ
主によりてしのび　みむねにまかせん

二 世にながらふるも　あめにのへるも
みむねのまゝなく　めぐみにもれじ

三 うきひのうちにも　みいつくしみの
なぐさめによりて　みむねをたゝへん

四　いま世をさりにし　ないそるともは
　　さかえのねむりを　うけてよろこばん

五　いまわかるれども　あめにてあふ日
　　みむねをよろこび　ともにぞうたはん

202　第二百二　ST. AGNES. 8686. (C.M.) G.

一　ともの世をさるを　なげくべしや
　　死は主にまみゆる　門にぞある

二　われらのやすきは　あめにあるべ
　　死よきたらざれと　ねがひはせじ

三　なきがらをうふる　などかなしまん
　　主もをうふらきて　さかえをうく

四　主にあるわれらも　とかにをらじ
　　みてなのひかりに　ねぶりはさめん

五　あめなるみかどの　ひらくるとき
主にともなはれて　みもとにゆかん

203　第二百三　RETREAT. 8888. (L.M.) B♭

一　あめつちのさきに　神(かみ)はましませり
寶座(みくら)のほとりは　わがやすきすみか

二　ものみなきえうせ　世(よ)はつきはつれど
みくにはかはらず　とこしへにさかゆ

三　まどひとつみにて　ほろびはせまれり
たゞしきみさばき　誰(たれ)かはまぬかれん

四　このよはながるゝ　みづよりもはやく
ひとはのべにさく　はなよりはかなし

五　はかなきこの身(み)を　主にゆだねまつり
みくらのほとりに　とこしへに住(すま)はん

204　第二百四　STONELEIGH. 87877. D.

一　うつせみのからは　よしくつるとも
くちざるたましひ　みくにゝゆきて
こがねのまちに　いやかゞやけり

二　なみだのたにより　たかきにうつり
とこしへのはるに　たえせぬはなの
みそのにうたふ　たのしみつきじ

三　のこれるわれらも　このよをはなれ
たのしきみそのに　ふたゝびあひて
かみのめぐみを　ともにぞうたはん

205　第二百五　BLESSED HOME. 666666. F.

一　なはまはしの　としめぐりて
はるもあきも　すぎさりなむ
わきもさきに　いてひをきる
とものむかふ　ゆきてねむらん

二　なはいくその　あめあらしは
　　このいそにや　うちくるならん
　　われはやがて　なみかぜやみ
　　しづけき日と　なるをまてり

三　なはあまたの　なやみありて
　　うきなみだも　こぼるゝならん
　　されどわれは　とこしなへに
　　よろこびある　くにゝぞいらん

四　すくひぬしよ　主の日のため
　　御血をそゝぎ　つみをあらひ
　　わがこゝろを　きよくなして
　　ちゝのもとに　かへらしめよ

206

第二百六　DULCIANA. 75757575. C.

一　さりにしひとの　こしかたを
　　かへりみすれば　うつせみの
　　もぬけのからと　なりしかど
　　こゝろはいかで　きえぬべき

二
かみのまさみち　ふみのぼり
まめにつかへし　かみの子(こ)の
よにのこしつる　あいの果(み)れ
いろもかはらで　かぐはしや

三
なみかぜいとも　あらきよに
うからはらから　ひとのため
うきをしのべる　あいてろれ
のちのよまでも　おちざらめ

四
知識(ちしき)はすたり　とみもまた
きゆきど耶穌に　したがへる
いやしきをみな　をさなでの
なしつるわざも　いやさかえん

五
おぼろにみたる　てひつじを
まのあたりみて　わがともは
あまつほかひと　もろともに
エホバのあいを　うたふべし

207 第二百七 ST. SYLVESTER. 8787. F.

一 しづかにさしくる ゆふ日のかげに
よをさりしともの おもかげのこる

二 はかなくうきよを さりにしともを
しのべるこゝろは いまもかはらぞ

身ははなるれども こゝろはともに
たのしきにめにて ともにすまふし

四 かゞやきいでくる ほしやそれかと
おもふも天にゆく みちのしるべか

208 第二百八 IMAYO. 7575. Ger.

一 わがたましひよ 羽をあげて
あまつみくにに たちむかへ

二 日月もつちも みなほろびん
かけりそゝみて みざにゆけ

三　みづはながれて　うみにおち
　　ほのほはうへに　たちのぼる

四　かみよりいでし　このたまの
　　かみにかへらぬ　ことやある

五　まよへるものよ　かなしみの
　　なきまさみちに　とくかへれ

六　主はよろこびて　あめにます
　　ちゝのみもとに　ともなひなん

七　ちゝのみくにぞ　うごきなく
　　たのしみみちて　たゆるなし

八　ほろびゆく世(よ)に　こゝろをぞ
　　とめでそゝめや　あまつくに

第二百九 VOX DILECTI. 8S8S86. Bb.

一 いはかどけはしき　ヨルダンがはの
こなたのきしべに　しばしたちて
げにもうるはしき　わがなりはひ
さきはふくにをぞ　うちながむる

二 みづはきよらかに　やまはあをく
野にもはたにも　みのりしげし
世のたぐひならぬ　あめのカナンの
けしきいかにと　おもひやらる

三 かみのみ子エスの　御世にありし
よるはおとなくぞ　みなうせさり
とこしへのひかり　てりかゞやかん
ひかりのそのはを　とくみまほし

四 ちゝのみかほを　うちあふぎて
ふところに休はん　日ぞまたるゝ
ヨルダンの川なみ　たかゝるとも
おそれずすゝみて　わたりゆかなん

210　第二百十　AZMON. 8686 (C.M.) Ab.

一　たのしきくにわり　きよきともむ
　　うきことわすれて　かしこにすまん

二　とこしへのむるに　きぼまぬむあ
　　ふはへるところぞ　わぐくにある

三　そのくにへわたる　うみぢちかし
　　ひとれ岸(きし)べふたち　あはまよへり

四　まよひのくもきり　むれわたりて
　　みくにみえぬをば　われおそれじ

211　第二百十四　GUIDE. 777777. G.

一　わをれうきよを　わたるたびぢと
　　うきひとあやこ　身(み)をしのこめむ
　　のがれてぞゆく　わまつふるさと

二　かしこにきみむね　はきらをまねく
つかれはすきて　いてひにぞいる
よろこぶところ　あまつふるさと

三　あめかぜあらく　わが身をうてり
ときさへわかず　やどるいへなし
間なくいたらん　あまつふるさと

212　第二百十二　MESSIAH. 7777777. F.

一　わきのすみかね　このよにあらで
むるかうへなる　たのしきくにぞ
主なるキリスト　わきらのために
ところ備へんと　さきだちゆけり

二　なみかぜあらき　このよのなだを
こえゆくやども　われはおそれず
しづかにねむる　ひとよのゆめの
さむるときころ　てんのみなとなれ

三
われらるむしき
さうえのきみの
つゝもおやゝも
ちゝとをもにぞ
うのくにゝゆき
ひかりをあふぎ
死(し)もおきさとに
おがくすまふし

213　第二百十三　HEAVEN.　7676776. G.

一
わが主の御世(みよ)ぞ
あめのみやゐの
聖名(みな)とみちから
こふろわたゝへ
うるむしのる
うのたふとさ
とこしへまで
くちわぞやめん
主のをさむる
われ見(み)ざりなん
あまつくにを
つねみがまつ

二
わが主のみよむ
てる日わとむわ
やしのきらめき
あめのうてなむ
やゝの夜(よ)おし
ひかりたえず
きえうすとも
てりぞまさらん

三
わが主のみよむ
たゝいたのしゝ
みだれもおし
主いよろこびん

あやにめでたき　わが主の御世(みよ)
げにしたはしや　ゆきてすまはん

214　第二百十四　ST. BRIDE. 6686. (S.M.) E♭.

一　わがたゞしき　審判者(さばきびと)よ
　よろづのものみな　おぢのしこまん

二　あがなひたる　たまをとらんと
　のぞみきますとき　われをめすや

三　みたみのうち　われはいやし
　されどもそのかほを　見(み)まくほりす

四　みたまを召(め)し　たまふときに
　われの名(な)もれなむ　なげきいのに

五　その日(ひ)なげき　なあらしめそ
　まどひとおそれを　しづめたまへ

六　末日のふえ　きこゆるとき
せい者とみまへに　たゝせたまへ

七　さらばわれの　うたふさんびを
あめのおほみやに　ひゞきわたらん

215　第二百十五　THOMPSON. 6686. (S.M.) F.

一　たふとき主よ　いまわれらの
こゝろにきたりて　やどりたまへ

二　信とあいとを　あたへよかし
主にあるよろこび　あぢはひしらん

三　はかりがたき　いつくしみの
たけ廣たかさを　しらしめよや

四　さらばわが主　耶蘇によりて
凡ての敎くわいを　ちからをまさん

五　わが教會(けうくわい)の　おこなふ業(わざ)
おもひにまさりて　のぞみにこえん

六　わがなはきし　主の家族(やから)は
あまつのみによゝ　さかえを歸(き)せん

216

第二百十六　ST. LAWRENCE. 8838. (L.M.) G.

一　わが主よ我(われ)らは　たふとき血(ち)をもて
購(あが)ひたまひにし　主のいへをあいす

二　その壁(かべ)はきよく　主のみまへにたち
いしずゑは固(かた)く　主のうへにおけり

三　主の家(いへ)のために　いのりをつねにし
まごゝろを盡(つく)し　ちからもをしまじ

四　たのしき交(まじ)はり　たゞしきちかひに
よろこび溢(あふ)れて　主のあいをうたふ

五　すくひぬし王よ　聖手もろ〳〵の
敵よりわれらを　まりいだしたまはん

六　眞理あるかぎり　すべて地のはまを
天のさいはひ皆　シオンにてぞ歸それ

217　第二百十七　BALERMA. 8686. (C.M.) Ab.

一　へいわのきみなる　われのかみよ
おほいなる聖名を　あがめうたふ

二　御世とこしへなる　わが主エスよ
たゝへのみつぎを　うけたまひね

三　かふものなりし　よわきむきも
いまむまもられて　やすくぞすまん

四　なげきてもとめし　ろのことむも
いまむよろこびの　うたとなきり

五　かみよこのみやの　平和(へいわ)をもて
　　われらのむつみを　つなぎたまへ

六　わきられ牧士(ぼくし)と　こゑをあわせ
　　めぐみの勝(かち)をぞ　たゝへまつる

218 第二百十八　MARLOW. 8686 (C.M.) G.

一　主のひつじかひよ　耶穌にならへ
　　いのちをすてにし　耶穌にならへ

二　おのきのひつじを　すてゝふわげし
　　やとむれびとわむ　ならふあられ

三　おのがこひつじに　こゑをしられ
　　またこひつじをも　しりてあいせよ

四　けむしき野(の)やまを　こゆるときも
　　むきをみちびきて　さきだちゆけ

五
かきねをこえくる　ぬすびとらに
おのがこひつじを　なうむゝきろ

六
主のひつじかひよ　耶穌にならへ
いのちをすてにし　耶穌にならへ

219　第二百十九　ALETTA. 7777. F.

一
シオンの聖山（みやま）に　たちてすくひを
つたふるものゝ　あしはうるはし

二
耶穌はたにうち　シオンのみたみを
をさむとつぐる　こゑのきよけさ

三
このこゑをきく　みゝぞさちなる
さきのひじりも　つひにえざりき

四
みひかりをみる　目（め）はさいはひぞ
よゝのひじりも　みぞしてされり

五 かみのみやこも やまざとまでも
すくひをうるを いはひよろこぶ

六 耶穌のめぐみを あめつちにみつ
きみとして仰(あふ)げ よろづくにびと

220 第二百二十 RATISBON. 777777. D

一 わがすくひぬし パンを取(とり)さきて
きよきむしろを ひらきはじめし
例(ためし)れおほくの 世(よ)をへてたえず

二 耶穌きみの身(み)を しるものこうむ
きみがふたゝび きまさんときまで
わすれがたみの このパンをさうめ

三 きよきためしれ みたまのねむる
やそのよごろも つみびとのため
しにませし主の あいをあらはせ

四
聖名(みな)をよぶもの　こゝにつどひて
ことはならはし　くらゐたがへど
ひとつむつみを　パンにこそしめせ

五
きたれはらから　主にあるともよ
このめぐみある　にくと血(ち)をうけ
くちぬまことの　かてとせよかし

六
耶蘇よわれらの　あがなはれたる
身(み)もたましひも　主のものなるを
このしるしもて　あかししたまへ

221　第二百二十一　AURELIA. 7676.7676. Eb.

一
主よをはりまで　つかへまつらん
わがかたはらに　つねにいませ
世(よ)のたゝかひも　なにかおそれん
主みちびきなば　まよひいでじ

二

このみまへに　たつるちかひ
まもるちからを　われにあたへ
世にかたしめよ　わがくちびる
たゝへのうたを　つねにうたはん

三

名利のあらし　よくのなみの
さわぐときにも　みこゝろもて
あるはいましめ　あるはすゝめ
わがたましひを　まもりたまへ

222
第二百二十二　BLUMENTHAL. 7.7.7.7.7.7. E.

一

われらいとはに　きみのものなり
あいのみかみよ　たゞみくらより
いのりをきゝて　この世のちの世
ながくわれらを　主のものとせよ

二

われらいとはに　きみのものなり
世のあらそひの　うちにもまもれ

まことのみちよ　いのちのきみよ
ひかりのさとに　みちびきたまへ

三
はふられともに　きみのものなり
主よこのもろく　よわきひつじを
あはれみふかき　まもりのなかに
おきてちかひの　のりを祝（しく）せよ

四
いきられともに　きみのものなり
みめぐみにより　わがともしきを
たすけにざもし　つみをゆるして
つちよりあめに　みちびきたまへ

223

第二百二十三　ORIO. 7575757 5. E♭.

一
貴（たふと）ときわが主（しゅ）よ　つみの身（み）われ
くらきたびぢに　さまよひぬ
あめよりいづる　みめぐその
ひかりをてらし　みちびけな

二
あがなひの血(ち)に　すくはれし
われいまより　たゞきみの
みちびく手(て)に　よりすがり
みくにのみちに　すゝみゆかん

三
きみのみもとに　わがかみの
みいかりのがれ　うれしくも
きよきしもべの　かずにいる
そのみしるしの　バプテスマ

四
ゆるさるゝ身(み)の　さいはひは
世(よ)にたぐふべき　ものぞなき
わが身(み)も靈(たま)も　みなさゝげ
聖名(みな)をたゝへて　日(ひ)をすごさん

224

第二百二十四　AVONA 7575. G.

一
よきかひぬしに　やしなはれ
すめるひつじは　あまたあり

二　ことにかよわき　こひつじは
　ふところにさへ　いたのりぬ

三　さきはちひさき　ひとりをも
　かろしめなすな　いやしむな

四　主のみすくひは　かぞならぬ
　身(み)にもおよびて　もれぞなき

五　うのみめぐみに　わが子輩(ら)も
　もれじとしれば　いとうれし

六　みまへにさゝぐ　をさな子(ご)に
　おのれその御手(みて)　のへたまへ

225　第二百二十五　PLEYEL'S HYMN. 7777. G.

一　ちゝなるかみよ　このをさなごを
　めぐみのくにゝ　うけいきたまへ

二　みすくひぬしよ　このをさなごの
もとのけがれを　とりさりたまへ

三　きよきみたまよ　このをさなごに
わかきこゝろを　もたしめたまへ

四　ちゝ子みたまの　あまつみかみよ
このをさなごを　あはれみたまへ

226　第二百二十六　SILOAM. 8686. (C.M.) D.

一　たへなるむしな　シロアムごのその
きしべをおほひて　ゆりさきにほふ

二　かよはきあしもて　平和のみち
あゆむ児子のさま　かくやありなん

三　くすしき感化力に　ひかるゝとも
しらで神にゆく　さちぞおほき

四 時(とき)えてさかえし はなもつひに
しをれかつれちる ときやきぬらん

五 ひともすゝみゆく としとゝもに
ふゆがれのけしき 身(み)にきたりなん

六 ひとの世(よ)のためし いかにあるも
かみとゝもにある 身(み)ぞやすかる

七 主もみどり子(こ)にて 世に生(あれ)まし
ひとのかなしきを あはれみたまふ

八 をさなきときにも おいにも死(し)にも
たゞ耶穌にありて 世をすごさなん

227 第二百二十七 TELL THE STORY. 76767676. G.

一 いともかしこし 耶穌のめぐみ
ほろぶる身(み)にも のぞみをあたふ

きみがたまはる　あめのかてに
うゑしこころも　あきたらひぬ
世にあるかぎり　主のみめぐみと
そのみさかえを　かたりつたへん

二
世のたのしみは　しばしのゆめ
とはにかはらぬ　たのしみある
耶穌のめぐみを　うけしわれは
もれなくひとに　かたりつげなん

三
すくひのめぐみ　つぐるわれは
たのしみあふれ　うたとなりぬ
ほろびをいでし　このよろこび
あまねくひとに　えさせまほし

四
たへにくすしき　主のめぐみは
世にみちわたり　あるかひなき
われをもすてず　めしたまへば
たれかもるべき　主のすくひに

228 第二百二十八 HEBRON. 8888. (L.M.) B♭.

一 かみよあはれみて　みめぐみをくだし
みかほのひかりを　われらにてらしね

二 さらばちよろづの　くにのはてまでも
そふみてすくひの　みちをのべつたへん

三 いとたかきかみよ　すべてよのたみは
さかえのみ名(な)をば　あがめさせたまへ

四 わがかみの御世(みよ)と　主のみそくひとを
よのひとすべては　たのしませたまへ

229 第二百二十九 ORTONVILLE. 8686. (C.M.) G.

一 われらのつみをば　あがなふ耶穌の
ふかきみめぐみは　はかりがたし

二　すくひぬし耶穌を　ほめたゝへんに
ちよろづのくちも　なほたるまじ

三　そのいつくしみは　やすきをあたふ
つみとがのうきこひも　みなきえはてん

四　ひきのきみ耶穌よ　みなによりて
ひろむるをしへを　たすけたまへ

230　第二百三十　MISSIONARY HYMN. 7676.7676. D.

一　きたのはてなる　こほりのやま
印度(いんど)に有(あり)といふ　珊瑚(さんご)のしまも
このアフリカの　てる日あつき
いさごのはらも　みなごけべし

二　あな憂(う)まよひの　このくさりを
さりはなちてよ　たすけてよと
こゑあはれにも　せちにきこゆ
いかでためらひ　をるべきうれ

三
かみのめぐみは　くさ木(き)にさへ
あまねくおよび　はるとあきの
けしきもたへに　うるはしかる
など人(ひと)のみ　つみなげかる

四
うへより智慧(ちゑ)に　てらされたる
わが身(み)はいたで　このひかりを
くらきにまよふ　世のたみらに
てらさでかくし　秘(ひめ)おくべき

五
メシヤの聖名(みな)の　あがめらるゝ
その日(ひ)をのぞみ　いよゝはげみ
すくひぬしなる　わがおは君(きみ)の
御世(みよ)をあまねく　世にひろめなん

231　第二百三十四

MIRIAM. 7.6.7.6.7.6.7.6. B♭.

一
たへがたかりし　夏(なつ)すぎさり
あきのかりいれ　やがてきたらん

なみだとともに　まきしたねは
うたとともにや　かりいれ爲らん

二　かなしみていま　つとめをなし
うちなげきつゝ　たねまけども
たそがれどきは　こがねなせる
たり穂になひて　かへりきぬらん

232

第二百三十二　WEBB. 7676767676. A.

一　あしたのひかり　やみはらされ
くらきやみ夜の　きえゆくとき
地はそむ子らし　めをさまして
なみだながらに　つみをくいぬ

二　うなむらむらふ　かぜのおくる
しらせをきけむ　よものくにし
みだれさわぎて　シオンのやまの
いくさはてそは　おもむくめき

三
ことくにびとも　ゐがかしこむ
かみのみまへに　みなひれふし
よろづのたみも　はでふろより
めぐみをしたひ　そらをあふぐ

四
世(よ)のつみびとは　あいのみこころの
めしにしたがひ　すくひぬしの
ふかきめぐみを　くにぐにより
みもとにきたり　もとむるなり。

五
あなたふとしや　すくひのこゑ
よものくにぐに　ながれめぐり
つみあるたみも　まきたれりと
よぶふ日(ひ)までれ　なとゞまりそ

233

第二百三十三　ZION. 11 10 11 10. G.

一　あふうるはしシオンのあさ
みちのひかりてりいづ

くらきにまよへるたみも
やみをいでゝよろこばん

二

のぶやくシオンのあけぼの
たのしき日はちかれぬ
イスラエルもことぐにも
ともにさいはひをぞえん

三

あれ野にはなさきにほひ
いづみわきながれいで
ゆたかなるそのになれり
よろこびのこゑおこらん

四

おほうみよりもくがよりも
みよ主のめぐみをみよ
たふときすくひのみこゑぞ
よもにあまねくきこゆ

234　第二百三十四　BRADBURY. 878787. Bb.

一
げにさいはひなる　すくひのこゑは
あめにもつちにも　鳴(なり)とゞろけり
うみやまこぞりて　こゑうちにはせ
うたひてたのしむ　ときこそきつれ
　あさひのごとく　かゞやきのぼる
　耶穌きみのひかりを　もろびとあふ(ヲ)げ

二
たゝかひはやみぬ　すくひのはたの
もとにはしりゆき　しづかにいこへ
あたのなやみなき　めぐみのかげに
よりてやすむべき　ときこそきつれ

三
みふみのちかひは　かはりなければ
その日のきたるを　たのしみまてり
やみにすむたみも　きみのひかりを
よろこびみるべき　ときこそきつれ

235　第二百三十五　CASKEY. 7676767 6. G.

一
われらのかみは　うごかぬいは
かたきしろなり　またあやふき
ときのたすけぞ　うたがひつゝ
まどへるときの　ちからとならん

二
たけりあらぶる　あたびとらに
かみはくみせず　かみの手（みて）は
あたにまさりて　つよくあれば
あたのたくみは　みなほろびなん

三
ひとのちからは　おとろへゆき
勇氣（ゆうき）もたゆむ　てとあきども
かみのえらべる　撰民（みたみ）のをさ
全能（ぜんのう）のまそらを　かむりあらじ

四
主よたちたまへ　みてをあげて
たへなるちから　世（よ）にあらはし
われらをさゝへ　サタナの手（て）に
とらはれしむる　ことをな爲（せ）そ

五　御手(みて)のちからに　よりすがりて
　　かちうたうたひ　みまへにおり
　　よろこび躍(をど)らん　日(ひ)をぞのぞむ
　　めぐみのちから　かぎりあらじ

236　第二百三十六

KENTUCKY. 6686. (S.M.) G.

一　主によりてぞ　いつくしめる
　　とものまじらひ　とはにたえじ

二　ちゝのまへに　ともにいのり
　　おなじきのぞみと　おそれをもたん

三　ともにしのぶ　うきなやみも
　　みめぐみのしたに　つひにきえなん

四　世(よ)のわかれも　またてんにてあふ
　　あいのむつびころ　たのしくあき

五　罪(つみ)もうきへも　なきみくにの
　　あいのたのしされ　かぎりあらじ

237　第二百三十七　BARNBY. 888888. D.

一
キリストのまへに　よろこびつどひて
そのいつくしみと　めぐみをおぼえよ
キリストのわれを　いつくしむごとく
ともにいつくしみ　たがひにかたれよ

二
キリストのために　おのが身(み)をわすれ
ちからをつくして　さかえをあらはせ
キリストわれらを　みちびききたりて
われら皆ともにぞ　あつまりたまへる

三
キリストをおのが　かしらとあがめて
そのえだとなりし　はらからよともよ
たがひにしたしみ　ともによろこびて
キリストのみ名(な)を　ほめたゝへまつき

238　第二百三十八　STOCKPORT. 10 10 10 10 10 10. Bb.

一
われらがたつるいへの　もとゐは耶穌キリスト
かべはすくひみかどは　たゝへのうたなるなり

わが主はへりくだれる　あきみをよみしたまふ
こゝろにをおきつゝふる　こゝろはいさぎよかれ

二　こゝろにありてひれふす　たましひこそいのりの
氣息(いき)をすひてのぞみの　よろこびみちあふるれ
いやそふみにゝまへに　のぼりてゆく信仰(しんかう)も
いとさへにうるはしき　果(み)をさはにむすぶべし

三　かみのおほせるあるし　つねにこのみやみゝち
つみびとらのくさりを　とみにとけそあれよな
ひとりは耶穌によれる　たましひをかゞやかし
世(よ)のきさなきひとをも　みゝさちに似(に)せさまへ

四　ちゝのみゝゝよ子(こ)なる　そくひぬしよみさまよ
このみやにてひとしく　おちゝしこまれさまへ
よろづのものことごと　みくらのもとにふして
主こそきみのきみなれ　うゝのうみとよぶまで

239 第二百三十九　MARLOW. 8686. (C.M.) G.

一　あみのみやのため　やすきをねがふ
いつくしむともよ　めぐみあきな

二 ひたすらにいのる　このおほみや
のぎりなくさうえ　いよやすうき

三 またしめるものよ　みやのために
こゝろをあはせて　ともにいのき

四 かみなるエホバよ　さゝげまつる
このみやによりて　さうえあきな

240 第二百四十 DOWNS. 8686. (C.M.) D.

一 かみのみめぐみを　たゝへうたひ
主のいつくしみを　ほめうたふべし

二 みめぐみいつねに　みやをさらず
いつくしみもまた　とこしへなき

三 めぐみのひかりを　このみやより
たえなくてりいで　やみをてらせ

四　いつくしみのみづ　ながれいでゝ
かわけるたましひ　うるほはせよ

五　やみぢにまどひて　ほろびゆきなん
世のひととく來よ　いのちうべし

六　うるほひつきはて　もゆるつみに
くるしむたましひ　きてうるほへ

七　主のいつくしみと　かみのめぐみ
このみやのうちを　はなれさらず

八　そのいつくしみを　つねにたゝへ
ながくみめぐみを　うたはしめよ

241　第二百四十一　GAUNTLETT. 75757575. Bb.

一　きよきみかみと　キリストの
やまよりたかき　いつくしみ

うみよりふかき　みめぐみは
わが日の本に　あふれきぬ

二
いざはらからよ　わがともよ
みふじのみはた　ひるがへし
たゝへのこゑを　うちあげよ
かみのみくには　かゞやきぬ

三
いのりのいへに　つどふ子ら
ひとふせでとふ　かずをそへ
はじめにまさる　主のめぐみ
紀念のこの日を　いはふなり

四
またくるとしの　けふの日も
さらに百千の　かずまして
こゑさへたかく　いやひゞき
めぐみをこうれ　うたふらめ

242

第二百四十二　EVANGELINE. 7676 7676. D.

一
わらべのちかひ　あめにありて
このよのちかひ　いとやさきり

一
そのいつくしみ　とはにあれば
かはらぬものと　なづくるなり

二
わらべのすまひ　あめにありて
よのすまひより　いとやすけし
をさむるものは　主エスなれば
そのさいはひも　かぎりぞなき

三
わらべのうたは　あめにありて
あまつゝかひも　よろこびうたふ
すくひたゝふる　こゑたのしく
よろづ世までも　たえざるなり

四
わらべのかむり　あめにありて
かゞやきわたる　あしたゆふべ
主を見てならひ　まだゝひなば
そのよきかむり　かうべにうけん

五
わらべのこゝろも　あめにありて
きらめきわたり　いとうるはし

主はきせむやと　まちたまへり
みまへにいでよ　いざこどもら

243

第二百四十三　EDEN. 6.6.6.7.6.4. Eb.

一
たのしきくに　てんにあり
聖者(せいじゃ)はさかえ　かゞやく
耶穌をあがめ　よろこびうたへ
こゑをあげて　たゝへよ

二
主のみまへに　きたれよ
なためらひそ　とくこよ
楽(たの)しさおほく　うれひいつきぬ
きみがともに　いませむ

三
主なるかみの　をさむる
くにゝつどひ　よろこべ
かしこにゆき　さかえをうけて
聖者(せいじゃ)とともに　かゞやけ

第二百四十四　HARVARD. 757575. C.

一
あめにまします　おふかみは
わらべのいのり　きかざるや
かみはよろこび　きゝたまふ
こたへのしるし　さちおほし

二
あめにまします　おふのみは
あしきわざをば　みたまふや
かみはよるひる　よしあしの
わざをもらさず　見(み)たまへり

三
あめにまします　おほのみれ
いつはるときは　しらざるや
のみれのくれし　ことまでも
あらはにしりて　みなむくゆ

四
あめにまします　おふのみれ
われらをめぐみ　まもれりや

のみはすべての　よきものを
そなへてつねに　めぐむなり

245

第二百四十五

EMMANUEL. 6565. Bb.

一　さゝやかなる　したゝりも
ながれゆけば　うみとなり

二　こまやかなる　まさごすら
つひにつもり　くがとなる

三　いとみじかき　つゆのまも
かぎりなきの　世（よ）とはならん

四　こゞがちひさき　あやまちも
こぞをつみに　おとすなり

五　あいのことば　ちひさくも
このよを天（てん）の　エデンとなさん

六　をさなごらの　手にてまく
いとちひさき　あはれみの

七　たねはかすを　まだしらぬ
國までとどく　はびこりて

八　ゆたけき實を　むすびつゝ
よろづの人を　めぐむなり

246　第二百四十六　ST. CONSTANTINE. 7575. D.

一　あはれみふかき　かみの聖子
いのりのこゑを　きゝたまへ

二　とごのをゆるして　わがうちの
つみのきづなを　ときたまへ

三　きよきのぞみを　たもたせて
あまつみくにに　いきたまへ

四　このやまぢより　みひかりへ
みちびくみちと　なりたまへ

五　あはれみふかき　かみの子(こ)
いのりのこゑを　きゝたまへ

247　第二百四十七　ST. SYLVESTER. 8787. F.

一　主はよるをさなき　わが身(み)をめぐみ
主よ夜(よ)のふしどは　やすくつかせよ

二　この日(ひ)をやすけく　くらさせたまふ
きみがみめぐみを　みまへにたゝへん

三　こゞゆることなく　うゝることなく
たまものゆたかに　あたへたまへり

四　たすけのかひなを　なほとりさらで
よるもよすがらに　たすけをたまへ

五　いつくしむともと　己が身(み)のために
ゆふべのいのりを　主よきゝたまへ

248　第二百四十八

STOCKPORT. 10 10 10 10 10 10. Eb.

一　わが主すくひのをさよ　こゝにをしへをうくる
たましひを御手(みて)にとり　かみのきよきつとめに
ふさはしきものとせよ　みかたちをこのうちに
つくりなしてつひにハ　パラダイスにうつしね

二　世のけがれよりいだし　聖言(みこと)にておふしたて
十字架のよろこばしき　おもにゝたふる(ユ)ちから
日(ひ)ごとにやしなはせよ　くるしみといたみとを
しのぶ主のみこゝろを　わのこゝろとなさせよ

三　主のたけきつはものを　よもにいさみすゝませ
あまねく世(よ)のはてまで　ふくいんをひろめしめよ
あたへあくうけたるを　あたへあくしてあたへ
いくるもとある死(し)をば　もろびとにつげしめよ

249 **第二百四十九** FAREWELL. 878787 87. G.

一
みかみのたまへる うちのひかりを
みがけるまなびの いへをたちいで
たがひにわかれて いへぢにむかふ
いづこにゆくとも ともにうけたる
まなびのひかりを かゞやかしめよ

二
まなびのまどにて むすべるあいの
くさりはほどけじ ちぎりはふかし
わかれはかなしく しのびかぬるも
へだてぬともどち たがひにたすけ
世(よ)になすつとめを のぞみたのしまん

三
われらがあいする まなびのいへと
したしめるともと いへのうからに
まことゝあいとを むねとつとめば
きよきよろこびは たえずあるべし
とこしへのよまで みにめぐまれん

250　第二百五十　EVAN. 8686.(C.M.) Ab.

一　わがすくひぬしよ　わが主エスよ
わかちのともをば　ともなひゆけ

二　そのくにへかへる　たびのみちを
うみにもをかにも　まもりたまへ

三　わかれてまたの　きしべにたち
やうげをみやりて　またいのり

四　いつくしむともよ　よるもひるも
たゞすくひぬしに　すがりてゆけ

251　第二百五十一　BOYLSTON. 6686.(S.M.) C.

一　いまこそわかれて　わかれゆけど
こゝろはかはらじ　主のみまへに

二　主のみわざを　ともにつとめ
あらし主によりて　いよゝはげまん

三 いまたがへそ　のこの御田(みはた)
やがてうりいきを　おめふをさめん

四 主のやそみふ　ともにいりて
やそらひたのしむ　ときをのぞまん

五 ろのときころ　まうれあけき
としへふむつび　みまへふそまん

252 第二百五十二　HOME. 7575775. Ab.

一 むすぶいも背(せ)の　ろのいへふ
まが主もともふ　つらありて
ちゝのみうこの　みむねふあれる
いむひのむしろ　祝しませ

二 みまへふきよく　あらびたつ
いもせのちぎり　ちよかけて
うむらぞともに　たすけいそしみ
までゝろつくし　主ふつうへん

三
しないとおほき　よのなかに
ことにめでたき　こゝろぞへ
あれみふかく　なさけにみちて
さいはひ家(いへ)に　たえざらなん

四
きよけきあいの　まじはりに
なぐさめつきせ　おもき任(に)も
たがひにわかち　ともにになひて
よろこび進(すゝ)まん　主のみちに

253

第二百五十三　WARD. 8888. (L.M.) B♭.

一
大(おほ)いなる神(かみ)よ　つねにまもりませ
ちからある御手(みて)を　われらほめたゝふ

二
新(あた)らしき年(とし)は　主のあいをしめせ
めぐみはたえせじ　年(とし)またをはるも

三
いへの内(うち)と外(そと)　よるひるわかたず
みめぐみをうけて　この年(とし)をすごさん

四 われらの前途(ゆくさき) くらきやみなれど
みちびくひかりに 身(み)をやすくゆだねん

五 われらのよろこび またやすみどころ
禍福(まがさち)よしあし ともにわが神(かみ)に

六 主の愛(あい)は我(われ)に のぞみをあたへて
おとろへさかえに たゞ主をほめしむ

254

第二百五十四 BYEFIELD. 8686. (C.M.) F.

一 四季(しき)を司(つかさ)どる めぐみふかき
神(かみ)の賜(たま)ものは ときはにみつ

二 主の守(まも)りにより このひとゝせ
安(やす)けく過(すご)こし めぐみをおもふ

三 今年(ことし)の日(ひ)はつき わざもをはり
よろこび労苦(いたづき) みなとびさる

四　いまは記憶さへ　うせんとすれど
審判の日には　またあらはれん

五　惠みふかき主よ　としとつもる
大いなる罪を　ゆるしたまへ

六　これらの惠みを　つねにあたへ
空しく月日を　なすごさせそ

七　命をはらん日は　ちゝのいへに
ゆきうる備を　なさしめよな

255

第二百五十五　LUBECK. 7777. C.

一　ほめよたゝへよ　これらのかみの
ふかきめぐみは　いつもかはらず

二　日ごとたがはで　あまつ日てらす
ふかきめぐみは　いつもかはらず

三

夜(よ)ごときらめく　つきほしかざる
ふうきめぐこむ　いつもかむらず

四

早苗(さなへ)うるほす　あめつゆたまふ
ふうきめぐこむ　いつもかむらず

五

田面(たのも)ゆたけく　みのりたらむす
ふうきめぐこむ　いつもかむらず

六

いまいあぐらふ　田實(みのり)みたしむ
ふうきめぐこむ　いつもかむらず

七

これふくむへて　ヨグたましひの
たふときかてを　あめよりあたふ

八

よろづのたみよ　ヨれらのあみの
ふあきめぐみを　ほめよたゝへよ

256　第二百五十六　HINOMOTO. 661661. E.

一
わがやまとの　くにをめぐみ
けがしき　なみたゝせで
とこしなへ　きよめたまへ
わがかみ

二
わがあいする　くにをまもり
あらぶる　かぜをしづめ
世々(よゝ)やすけく　をさめたまへ
わがかみ

三
わがひのもと　ひかりをそへ
みくにの　すがたとなし
世々(よゝ)みこゝろ　ならせたまへ
わがかみ

257　第二百五十七　BARNBY. 888888. D.

一
あめつちの主なる　おほかみの御手(みて)い
代々(よゝ)の祖(おや)たちを　たえずみちびけり

しげれる醜(しこ)ぐさ　みなかりつくして
やすけきいはねに　くにをおきたまふ

二　みめぐみわすれし　たみをもみすてず
御手(みて)はいまもなほ　このくにのうへに
とまりてゆたけく　さきさはひをあたへ
いよゝひのもとの　ひかりをぞそふる

三　あいにとむかみよ　いつくしむたみに
みめぐみをおもひ　いださしめたまへ
やまはうつりさり　はるあきれつひに
きたらずなるとも　主をうたはしめよ

258　第二百五十八　GEANGE.　878787.　F.

一　あめなる寶座(みくら)に　めぐみのひかり
はなちてよろづの　くにぐにをさむる
みかみをたゝへて　よろこびうたへ

二　みいつくしみにて　つねにまもられ
おそれなくやすむ　このくにたみも
よもにみさかえを　つげざるべしや

三　やすけきこの日と　このよきくにを
わたへしみかみを　うやまひあがめ
そのみこゝろをぞ　くにゝ成(なさ)ましし

四　くにたミヱホバの　みこゑをきゝて
たかき首(かう)べをさげ　つみをなげきて
こごの主の十字架(じふじか)の　もとにひれふせ

五　十字架のひかりに　よもにかゞやき
道(みち)をおほひかくす　くもふきちらし
あきらけき世(よ)をば　きたらせたまふ

259　第二百五十九　AIKOKU. 7575757588S. A.

一　あめにいまして　世(よ)ををさめ
つちなるくにを　すべたまふ

主のおほまへに　みめぐみと
みいづのしこみ　ふしをがむ
こころもことばも　あまつおほきみに
よろこびをつらぬ

二　めぐみをうくる　くにのたみ
ことほりなきや　主をあいそ
うせむあたなく　うちやそく
たみさいむひを　たのしめり
うつくしきくにと　このいはひの日は
いのにゑさせしき

三．あめふろびゆる　たうやまも
地(ち)ふふそたにも　みどりなそ
むやしもともふ　そことむの
ひうりにあひて　果(み)をむそべ
主をこうたるへめ　みやこひるなへて
感謝(かんしや)のこゑをあげん)

260 第二百六十　MENDELSSOHN. 77777777. F.

一
讃美(さんび)はとこらの　かみに歸(き)すべし
ちよろづのたみ　あまつひじりも
みつゝひもみな　こゑをあはせて
といづのしこき　かみをたゝへよ

二
めぐみの座(ざ)より　さいはひれとが
あいそるくにゝ　ながれてあふる
主のみろなはそ　み目(め)にまもられ
つねに平和(へいわ)と　自由(じいう)をたのしむ

三
たみのよろこび　とこしへにみち
國内(くぬち)はきよく　たゞしきにより
こゝろたげのむち　うくることなく
安(やす)けくつゝへん　とこらのかみに

261 第二百六十一　BEATITUDO. 8686. (C.M.) G.

一
こゝろのまづしき　ものよろこべ
たのしきみくには　汝(な)がものなり

二　かなしめるものよ　しばししのべ
なぐさめらるべき　ときはれぬべし

三　にこやかなるもの　さいはひなり
めぐみのちかひの　くにをぞつがん

四　うゑかわくごとく　たゞしきことど
したふるのひとは　あくときあらん

五　あはれむこゝろを　いだくものは
かみのあはれみを　またうくべし

六　こゝろきよきもの　よろこびまて
みかみをまみゆる　ときあるべし

七　やはらぎもとむる　ひとはさいはひ
かみの子（こ）とよばれ　さかえをうけん

八　義（ぎ）のためみしだし　せめらるゝも
さかえのみくにを　ながくうけよ

262

第二百六十二　MAGDALENE. 7575575. F.

一　こゝろのきよき　そのひとは
　　身（み）はわらぢのねの　つちにをり
　　いばらのみちを　あゆむとも
　　こがねのまちに　いたるべし

二　こゝろのきよき　そのひとは
　　にごりにしまず　けがされず
　　うきよのちりを　うちはらひ
　　きよきみやこに　いりぬべし

三　こゝろのきよき　そのひとは
　　つみのほだしを　たちきられ
　　すくひのぬしに　むすびつき
　　あまつみくにゝ　のぼるべし

四　こゝろのきよき　そのひとは
　　この世（よ）のとみを　むさぼらで
　　さかえのかむり　たゞのぞみ
　　かみをみるとき　ありぬべし

第二百六十三

ST. GERTRUDE. 7575757 5. D.

一
あなかしこよし　いかなきむ
よものくにびと　さこぎたち
すべてのたみな　うちつどひ
むなしきことを　なかるぞや

二
もろもろのきみ　たちのまへ
をさらとさもは　おひなかり
エホバのかみと　メサイヤは
あたとなりてぞ　さからへる

三
あめはましまず　おほかみれ
うのえをものを　あさみつゝ
おほみいかりは　おぢしめて
えらびしきみを　シオンはたて

四
これはもとめよ　さらべこれ
よろづのくにを　ゆづりとし
地(ち)のはてまでも　なかものと
なしてあたふと　宣(のた)まへり

264 第二百六十四

ちゝも子（こ）もきよき　みたまも神（かみ）なり
みつなる聖名（みな）をば　ひとしくあがめよ

DUKE STREET. 8888. (L.M.) D. No. 12.

265 第二百六十五

ちゝと子（こ）みたまの　めぐみある神（かみ）を
あめつちこぞりて　よろこびたゝへよ

OLD HUNDRED. 8888. (L.M.) G. No. 38.

266 第二百六十六

われらがあがむる　ひとりのかみ
さかえとみいづれ　世々（よゝ）つきざれ

ORTONVILLE. 8686. (C.M.) G. No. 229.

267 第二百六十七

ちゝのかみみたま　聖子（みこ）にたとふ
世々（よゝ）とこしなへふ　みさかえあれ

AZMON. 8686. (C.M.) Ap. No. 66

268

第二百六十八

DOWNS. 8686 (C.M.) D. No. 240.

父(ちゝ)と子(こ)みたまの
たふとき神(かみ)に
むかし今(いま)のちも
みさかえあれ

269

第二百六十九

SYCHAR. 8787. D. No. 57.

ちよろづの國(くに)も
しまぐまでも
父(ちゝ)と子(こ)みたまの
聖徳(みとく)をほめよ

270

第二百七十

VESPER HYMN. 87878787. D. No. 9.

耶穌きみの功績(いさを)
かみのみめぐみ
聖靈(みたま)のたすけを
ひとしくわがめ
こゝろを協(あは)せて
いそしみつかへ
たゝへうたの聲(こゑ)
くちにたやすな

271

第二百七十一

NEWARK. 57577. Bb. No. 131.

さかえある
ちゝ子(こ)みたまの
みめぐみを
ほめよたゝへよ
よろづくにびと

272　第二百七十二

ITALIAN HYMN. 6616661. F. No. 32.

あめのたかき　寶座(みくら)にゐます
おほ神(かみ)の　さかえ世々(よゝ)
てりかゞやく　ほめうたへ
己がとも

273　第二百七十三

RATISBON. 777777. D. No. 87.

あめなる聖徒(せいと)　地(つち)なるみたみ
ちゝ子(こ)みたまの　たふとき神(かみ)を
世々(よゝ)とこしへに　ほめたゝふべし

274　第二百七十四

PORTUGESE HYMN.
11 11 11 11. G. No. 177.

めぐみをえし神のたみ　たのしみうたへよほめよ
あめつちをば治(しろ)しめす　ちゝと子(こ)みたまの神(かみ)を

第二百七十五

VENITE.

聖詩第九十五篇

率われらエホバにむかひてうたひすくひの磐にむかひて喜ばしきこゑをあげん

われら感謝をもてその御前にゆきエホバにむかひ歌をもて歡ばしきこゑをあげん

そはエホバは大なるかみなりもろ〱の神にまされる大なるわうなり

地のふかき處みなその手にあり山のいただきもまた神のものなり

うみは神のものその造りたまふところ旱ける地もまたその手にてつくりたまへり

いざわれら拝みひれふし我儕をつくれる主ヱホバのみまへにひざまづくべし

彼はわれらの神なりわれらはその草苑の民その手のひつじなり

今日なんぢらがその聲をきかんことをのぞむなんぢらメリバに在しときのごとく野なるマサにありし日のごとくその心をかたくなにするなかれ

その時なんぢらの列祖われをこころみ我をためし又わがわざをみたり

われその世のためにうみて四十年を歴われいへり彼らは心のあやまれる民わが道をしらざりきと

このゆゑに我いきどほりて彼等はわが安息にいるべからずとちかひたり

父と子と聖靈に榮光あれ
はじめも今もかぎりなき世にもあるものなりアーメン

276 第二百七十六

聖哉頌　TE DEUM.

神よわれら主をほめまつり神を主なりと信じあらむぞ
全地は主を無窮の父としてあがめまつる
諸の天使および天とその中のすべて權勢あるものとは主にむかひてうたひたひて
又ケルビムもセラピムも間斷なくうたひて
聖なるかな聖なるかな聖なるかな萬軍の神なる主

主の榮光あるみいづ天地にみつと
いふ

榮光ある使徒なる主をほめまつる
譽ある豫言者なる主をほめまつる
しろき衣を着たるあかしびとみな主
をほめまつる

天下の聖公會みな主をはかりなき稜威
あるちち敬ふべき眞なる獨一の聖子な
ぐさめ主なる聖靈なりと信じあらはす
キリストよ主は榮光ある王ちゝの無窮
にいます聖子なり

主は人を救ふために人となりたまへる
ときに處女の胎をもいとひたまはず
主は死の刺をほろぼし信徒のために天
國の門をひらきたまへり

主は父の榮光のうちにて神の右に
坐したまへり
われらの審判主となりて主の來りたま
ふことを信ず
この故にたふとき血にて贖ひたまひし
しもべを佑けたまはんことを主にい
のりまつる
われらを窮なき榮光にいれて聖徒とゝ
もに賞をえしめたまへ
主よ主の民をすくひ主の世嗣をめぐみ
つねに治めて立しめたまへ
われら日ごとに主をあがめまつる
世々かぎりなく聖名をほめまつる
主よ今日われらをまもりてつみを犯す
こと無らしめたまへ

主よわれらを憐みたまへわれらをあはれみたまへ
主に望をおくわれらをあはれみたまへ
われは主に望をおけり我には限りなく恥なからん

277 第三百七十七 BENEDICTUS.

路加傳第一章 自六十八節至七十九節

主なるイスラエルの神は讃むべきかな
是その民を顧みてあがなひをなし
我儕のために拯救の角をその僕ダビデの家に挺たまへばなり
往昔より聖なる預言者の口をもていひたまひしがごとし

即ちわれらを敵また凡てわれらを悪むものゝ手より脱すすくひなり
此れめぐみをわれらの先祖にほどこし
又その聖きちかひをわすれじとなり
是われらの先祖アブラハムに立しところの誓にしてわれらを敵の手よりすくひ
われらの生涯を聖と義において懼なく主に事へしめんとなり
嬰児よなんぢは至上者の預言者ととなへられん蓋なんぢ主に先ちてゆき其みちを備んとすればなり
神のふかき憐憫によりその罪をゆるされて救をえんことをその民にしめさんためなり

ろの憐憫によりて旭のひかり上より幽
暗と死の蔭にすめるものをてらし
われらの足をみちびきて平康なる路に
いたらせんとてのぞめり
父と子と聖靈にえいくわうあれ
はじめも今もかぎりなき世にもあるも
のなりアーメン

278
第二百七十八　JUBILATE.
聖詩第百篇

全地よエホバにむかひて歡ばしきこ
ゑをあげよ
欣喜をいだきてエホバに事へうたひつ
つそのみまへにきたれ
知れエホバこそ神にますなれわれらを
造りたまへるものはエホバにましませば

我儕はそのものなり我儕はその民その
草苑のひつじなり
感謝しつつその門にいりほめたたへつ
つその大庭にいれ
感謝してその名をほめたたへよ
エホバはめぐみ深くその憐憫かぎりなく
その眞實よろづ世におよぶべければ
なり
父と子と聖靈にえいくわうあれ
はじめも今もかぎりなき世にもあるも
のなりアーメン

279 第二百七十九 MAGNIFICAT.

路加傳第一章 自四十六節至五十五節

わがこころ主をあがめわが靈魂はわが
救主なる神をよろこぶ

是その使女の卑しきをも眷顧たまふがゆゑなり

今よりのち萬世までもわれを幸福なる者ととなふべし

それ權能を有たまへるものわれに大なることをなせり

その名はきよくその憐憫は世々かれを畏るゝものにおよばん

その臂の力をあらはして心の驕るものをちらし

權柄あるものを位よりおろし卑しきものをあげ

飢たる者を美食にあかせ富る者をむなしく返らせたまふ

アブラハムとその子孫を窮なく憐むことをわすれずして　その僕イスラエルをたすけたまへり
是われらの先祖に言たまひしがごときなり
父と子と聖靈に　榮光あれ
始も今もかぎりなき世にも　あるものなりアーメン

280 第二百八十　CANTATE.

聖詩九十八篇

あたらしき歌をヱホバにむかひてうたへ　それ妙なる事をおこなひ
その右の手そのきよき臂をもて　おのれのため救をなしをへたまへり
ヱホバはその救をしらしめ　その義をも

ろもろの國民(くにびと)の目(め)のまへにあらはしたまへり

又(また)そのあはれみと眞實(まこと)とをイスラエルの家(いへ)にむかひて記念(きねん)したまふ　地(ち)の極(はて)もことごとくわが神(かみ)のすくひを見たり

全地(ぜんち)よヱホバにむかひて歡(よろこ)ばしき聲(こゑ)をあげよ　聲(こゑ)をはなちて喜(よろこ)びうたへ　ほめうたへ

琴(こと)をもてヱホバをほめうたへ　琴(こと)の音(ね)と歌(うた)のこゑとをもてせよ

ラッパと角笛(つのぶえ)をふきならし　王(わう)ヱホバのみまへに喜(よろこ)ばしきこゑをあげよ

海(うみ)とそのなかに盈(みつ)るもの　世界(せかい)と世界にすむものと鳴響(なりとよ)むべし

大水(おほみづ)はその手(て)をうち　もろもろの山(やま)はあ

ひともゑエホバの前にてよろこびうたふべし

エホバ地をさばかんためにきたりたまへばなり

エホバ義をもて世界をさばき公平をもてもろもろの民をさばきたまはん

父と子と聖靈にえいくわうあれ

始もいまも窮なき世にもあるものなりアーメン

281

第二百八十一

BONUM EST.

詩第九十二篇

至上者よエホバにかんしやし聖名をほめたゝふるはよきかな

朝にあんだの愛しみをあらはし夜々あんだの眞實をあらはすは

十絃(ことゝ)のなりものと箏(さう)とをもちゐ琴(こと)の妙(たへ)
なる音(ね)をもちゐるれいとよきのな
それエホバよなんぢその作爲(みわざ)をもて我(われ)を
たのしませたまへり我(われ)なんぢの手(みて)のわ
ざをよろこびほてらん

父(ちゝ)と子(こ)と聖靈(せいれい)にえいくわうあれ
はじめも今(いま)もかぎりなき世(よ)にもあ
るものなりアーメン

282

第二百八十二　NUNC DIMITTIS.

路加傳第二章　自二十九節至三十一節

主よ今(いま)その言(こと)にしたがひて僕(しもべ)を安然(あんぜん)に
世をばさらせたまふ
わが目(め)すでに萬民(ばんみん)のまへに設(まう)けたまひ
し救(すく)ひを見(み)たり

これ異邦人を照さんひかりなりまたなんぢの民イスラエルのほまれなり
父と子と聖靈にえいくわうあれはじめも今も窮りなき世にもあるものなりアーメン

283 第二百八十三

DEUS MISEREATUR.

聖詩第六十七篇

ねがはくは神われらをあはれみ我儕をさきはひてその聖顔をわれらのうへに照したまはんことを
此れなんぢの途のあまねく地にしられなんぢの救のもろもろの國のうちに知れんがためなり

神よ庶民はなんぢを感謝しもろ〳〵の
民はみな汝をほめたゝへん
もろ〳〵の國はたのしみまた喜びう
たふべし
なんぢは直をもて庶民をさばき地のう
へなる萬の國ををさめたまふべけれ
ばなり
神よ庶民はなんぢに感謝しもろ〳〵の
民はみな汝をほめたゝへん
地は産物をいだせり神わが神はわれら
をさきはひたまはん
神はわれらを幸ひたまふべしかくて地の
もろ〳〵の極ことごとくかみをおそ
れん
父と子と聖靈にえいくわうあれ

始(はじ)めも今(いま)もかぎりなき世(よ)に─も═ある
もの─なり─アー─メン

284 第二百八十四 BENEDIC.

聖詩第百三篇

わが靈魂(たましひ)よエホバをほめ─まつ─れ═わが衷(うち)
なるすべてのものよそのきよき名(な)を─
ほめ─まつ─れ
わがたましひよエホバをほめ─まつ─れ═そ
のすべての恩惠(めぐみ)をわす─る─ゝ═なか─れ
エホバはなんぢがすべての不義(ふぎ)をゆる─
し═汝(なんぢ)の一切(すべて)のやまひをいやし
なんぢの生命(いのち)をほろびより贖(あがな)ひ─いだし═
仁慈(いつくしみ)と憐憫(あはれみ)とを汝(なんぢ)にかうぶらせたまふ
エホバにつかふるつ─かひ─よ═エホバの聖(み)
言(こと)の─こゑ─を─き─き

その聖言をおこなふますらをよヱホバをほめまつれ
その萬軍よその聖旨をおこなふしもべらよヱホバをほめまつれ
その造りたまへる萬の物よヱホバの政權の下なるすべての處にてヱホバをほめよ
わがたましひよヱホバをほめまつれ
父と子と聖靈にえいくわうあれ
はじめも今もかぎりなき世にもあるものなりアーメン

285　第二百八十五　EASTER ANTHEM.

復活の聖語

われらの逾越そなむちキリストはすでに宰られたまへり

然ばこれら舊き麪酵を用ゐずまた惡毒と
暴恨のぱんだねをもちゐず、眞實と至誠
ある無酵麪を用ゐて節をまもるべし

キリスト死より甦へりて復しなず、死も
また彼は主とならざるをしれり

是その死るは罪についてひとたびしに、
その生しは神についていきてしあり

斯なんぢらも我らの主イエスキリストは
より罪はついては自らしぬるもの、また
神については生る者なりとおもふべし

今キリスト死より甦へりて、寝たるもの
の復生のはじめとなれり
そは人によりて死ることといで、人により
て甦へることといでたり

アダムに屬るすべての人のしぬるがごとく
キリストに屬るすべての人もいく
べし
父と子とせいれいに榮光あれ
始もいまも窮りなき世にもある者な
りアーメン

286 第二百八十六　GLORIA IN EXCELSIS.

天上の榮

天上ところにもえいくわう神にあれ地
には平安人にめぐみあれ
主なるかみ天つ皇帝全能のちゝよ
われら主をほめ主をたゝへ主我をがみ主
に榮光を歸し主のおほいなる榮光に
對し主に謝したてまつる
ひとり生れたまひし聖子耶穌キリス
トなる主よ

世の罪をのぞきたまふ神のこひつじ父の子主なる神よわれらをあはれみたまへ

世のつみを除きたまふ主よわれらをあはれみたまへ

世の罪をのぞきたまふ主よわれらの祈禱をうけたまへ

父なる神の右に坐したまふ主よわれらをあはれみたまへ

キリストのみせいなりキリストのみ主なり

キリストのみ聖靈とともに父のえいくわうの中において最ともたふとしアーメン

287　第二百八十七　THE TEN COMMANDMENTS.

十誡

一　汝わがまへに我のほか神ありと爲べからず

二　なんぢのために偶像またうへは天したは地あるひは地のしたの水の中にある一切のものの像をつくるなかれ、此等にひれふし又つかふるなかれ、そはわれエホバなんぢの神はねたみの神にして我をにくむものには父のつみを子三四代にいたるまで罰し我をいつくしみわが律法をまもるものには千代にいたるまで恩惠をあたふればなり

三　なんぢの神エホバの名をみだりにいふことなかれ、そはエホバはその名をみ

だりにいふ者をつみなしとせざればなり

四

安息日をわすれずしてこれを聖日とせよ、六日のあひだははたらきて凡てなんぢの工をなすべし、第七日はなんぢの神エホバのやすみなれば汝すべての工をなすことなかれ、并びになんぢらの子、女、僕、婢女、畜および門内にあるたびゞとをも然せよ、そはエホバ六日のあひだ天と地と海とその中にある一切の物をつくりて第七日にやすみ給ひたればなり、このゆゑにエホバ安息日をいはひてこれを聖日とせり

五

なんぢの父と母とをうやまへ、なんぢの神エホバのなんぢに賜ひたる地のう

へおいて汝のいのちを長うせしめんが爲なり

六　殺すなかれ

七　姦淫をおこなふなかれ

八　盗むなかれ

九　隣人について偽りの證據をたつるなかれ

十　となりびとの家をむさぼるなかれ、隣人の妻またその僕、婢女、牛、驢馬および凡てとなりびとの物をむさぼるなかれ

288　第二百八十八　THE LORD'S PRAYER.

主の祈禱

天にまします我らの父よ、ねがはくは聖名をあがめさせたまへ、神國をきたらせ

たまへ、聖旨の天になるごとく地にも成せたまへ、われらの日用の食を今日もあたへたまへ、われらに罪ををかすものを我がゆるすごとく我儕のつみをも赦したまへ、われらを誘惑にあはせず惡より救ひいだしたまへ、國と權威と榮光とは汝のかぎりなく有ちたまふ所なり、アーメン

289 第二百八十九 THE APOSTLES' CREED.

使徒信經

われは天地のつくりぬし能はざるところなき父の神を信ず、われはその獨子われらの主イエスキリスト即ち聖靈によりて妊める處女マリアよりうまれ、ポンテオピラトのとき苦みをうけ、十字架につけられ、死てはうぶられ、陰府にくだり、第

三日ゟ死者のなかより甦へり、天ゟのぼり、能もざるところなき父の神のみぎゟ坐し、また生るひとゝ死るひとゝを審判せんためゟ彼處よりきたりたまふ主を信ず、われ聖靈を信ず、われ聖公會と聖徒のまじわりと罪のゆるしと身体のよみがへりと窮なき生とを信ず、アーメン

INDEX OF FIRST LINES.

The subject alone is indicated in the lines marked by an ASTERISK.

METRICAL INDEX.

Tunes with a chorus are marked thus :—(Cho.)

INDEX OF TUNES.

INDEX OF SUBJECTS.

CONTENTS.

As regards the origin of the 263 hymns in this collection, they may be divided into four classes :—

(1) Hymns retained (with considerable amendments) from the older Hymnals of the *Itchi* and *Kumiai* Churches.

(2) A few hymns selected, by permission, from the Hymnals of some of the other Churches.

(3) Hymns that have become favorites among English speaking Christians, newly translated from the English.

(4) Original compositions by members of the Committee.

The hymns included in the last two classes form the greater part of the collection.

Copyright has been secured for this Hymnal. The Committee, however, will be happy to furnish any information regarding its hymns and tunes, and as far as possible grant the use of any of them in other publications.

The Committee pray that their efforts, however feeble and imperfect, may in some degree also prove a spiritual help in the praises of those who use this Hymnal, a means of their edification, and a preparation for the singing of the new song before the throne, which none can learn except those that have been purchased out of the earth.

The thanks of the Committee are due to Mr. Yuasa Jirō for relieving them of the various responsibilities connected with the business of publication.

THE COMMITTEE.

PREFACE.

These Hymns and Songs of Praise have been prepared by a Committee appointed in 1886 by the representative bodies of the *Itchi* (United) and *Kumiai* (Congregational) Churches. The members of the Committee are the Revs. Matsuyama Takayoshi, Miyagawa Tsuneteru, Mr. Tamura Hatsutarō and the Rev. Geo. Allchin for the *Kumiai Kyō-kwai*, and the Revs. Okuno Masatsuna, Uyemura Masahisa, Segawa Asashi and G. F. Verbeck, DD., for the *Itchi Kyō-kwai*. The Committee were much encouraged at a meeting of the Japanese Evangelical Alliance held in Tōkyō in May, 1887, when delegates of the various Protestant Churches then assembled expressed their confidence in the Committee. The Episcopal Churches also appointed a Committee to co-operate with the original Committee; but for various reasons they were unable to join in the work to any large extent.

Although the book is now published as the work of the Committee, it should be stated that the hymnological part has been prepared almost exclusively by Messrs. Matsuyama, Okuno and Uyemura, while the musical part, as well as many improvements in marking the tunes, meters, and key-notes, is the result of Mr. Allchin's labors, with such assistance as will be noticed in the preface of another edition, which is to be shortly published with music supplied to all the hymns and chants.

HYMNS AND SONGS

OF

PRAISE.

Prepared by a Committee.

TŌKYŌ AND ŌSAKA.

1888.

明治廿年十一月　版權免許
明治廿一年四月十一日印刷竣功
明治廿一年五月　一日出版
明治廿一年八月　再刊

定價金拾錢

著者兼發行者　東京府平民　植村正久
東京麹町區上六番町廿二番地

仝　東京府平民　奥野昌綱
東京麹町區三番町七拾壹番地

仝　新潟縣平民　松山高吉
東京京橋區日吉町拾貳番地寄留

印刷者　神奈川縣士族　須原德義
横濱區太田町五丁目九拾番地

發行所　警醒社
東京京橋區日吉町廿番地

Miss Katharine B. Wright.

No. 1 Kita Ichijo, Rokucho,

Sapporo, Hokkaido,

Japan.

Katharine B. Leight.